「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」

～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～

（石川県教育委員会）

H27	中核	

平成２７年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業　事業計画書

１．分野名

⑬　観光	「その他」分野名	

２．事業名称

「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」
～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～

３．産学官コンソーシアム又は職域プロジェクトの別

産官学コンソーシアム	

職域プロジェクト	（1） 職域プロジェクトA （「地域版学び直し教育プログラム」の開発・実証）	
	（2） 職域プロジェクトB （「特色ある教育推進のための教育カリキュラム等」の開発・実証）	○

※申請する取組いずれかひとつに「○」を記入すること。（大学院プログラムは別様式）

「女性の学び直し」に対応する場合、右欄チェック	

■ 代表法人（申請法人）等

法　人　名	石川県教育委員会
理 事 長 名	教育長　木下　公司
学　校　名	石川県立金沢商業高等学校
所　在　地	〒 920-0942 石川県金沢市小立野５丁目４番１号

■ 代表法人（申請法人）等

職　　名	学校指導課長
氏　　名	小浦　寛
電話番号	076-225-1826
Ｅ－ｍａｉｌ	gakusi@pref.ishikawa.lg.jp

■ 事務担当者　（文部科学省との連絡担当者）

職　　名	課長補佐
氏　　名	六反田　雅宏
電話番号	076-225-1828
ＦＡＸ番号	076-225-1832
Ｅ－ｍａｉｌ	rokutan@pref.ishikawa.lg.jp

５．産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの構成員・構成機関等

（1）構成機関（機関として本事業に参画する学校・企業・団体等）

構成機関（学校・団体・機関等）の名称		役割等	内諾	都道府県名
1	石川県立金沢商業高等学校	総括	済	石川県
2	石川県教育委員会	指導・助言、評価検証	済	石川県
3	石川県立輪島高等学校	観光教育・連携	済	石川県
4	石川県立七尾東雲高等学校	観光教育・連携	済	石川県
5	石川県立小松商業高等学校	観光教育・連携	済	石川県
6	金沢大学	国際経済・国際会計	済	石川県
7	金沢星稜大学	観光資源開発・フィールドワーク	済	石川県
8	北陸大学	ビジネス英会話・中国語・伝統文化	済	石川県
9	立教大学	異文化理解・国際観光	未済	東京都
10	横浜商科大学	評価指導・助言	済	神奈川県
11	北陸学院短期大学	観光資源開発・フィールドワーク	済	石川県
12	金沢観光専門学校	観光資源開発・フィールドワーク	済	石川県
13	京都IT会計法律専門学校	国際会計検定	済	京都府
14	㈱北國銀行	海外交流等支援	済	石川県
15	㈱PFU	職業英会話	済	石川県
16	コマツ	国際流通	未済	石川県
17	カタニ産業㈱	観光地向け商品開発・マーケティング	済	石川県
18	㈱近鉄ホテルシステムズ金沢都ホテル	長期型企業実習	済	石川県
19	㈱加賀屋	ホスピタリティ研修支援	未済	石川県
20	トップツアー㈱	観光・旅行企画	済	石川県
21	北陸化成㈱	商品開発	済	石川県
22	北國文化センター	ビジネス英会話	済	石川県
23	石川県商工労働部産業政策課	観光関連企業情報等支援	済	石川県
24	石川県観光戦略推進部国際交流課	国際交流支援	済	石川県
25	石川県観光戦略推進部観光振興課	観光振興連携	済	石川県
26	金沢市観光交流課	観光振興連携	済	石川県
27	金沢商工会議所	模擬株式会社支援	済	石川県
28	石川県産業教育振興会	助言・評価	済	石川県
29	シンガポール　テマセクポリテクニック	観光に関する国際交流・調査	済	シンガポール

30	ハワイ マッキンリー高校	語学交流（姉妹校）	済	米 国
31	南京旅遊職業学院	観光に関する交流（交流協定校）	済	中 国

（2）構成員（委員）の氏名（上記（1）の機関から参画する者及び個人で本事業に参画する者等）

氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
大薮 多可志	国際ビジネス学院・学院長	指導・助言	済	石川県
塩谷 雅弘	金沢大学人間社会学域経済学類・准教授	指導・助言	済	石川県
捧 富雄	金沢星稜大学経済学部・特任教授	指導・助言	済	石川県
長谷川 孝徳	北陸大学未来創造学部・教授	指導・助言	済	石川県
舛谷 鋭	立教大学観光学部交流文化学科	指導・助言	未済	東京都
宍戸 学	横浜商科大学商学部観光マネージメント学科教授	評価指導・助言	済	神奈川県
吉田 國男	石川県産業教育振興会・会長	指導・助言・評価	済	石川県
藤村 茂	北陸化成株式会社・専務取締役	商品開発	済	石川県
飯山 晄朗	一般社団法人 人財開発フォーラム・理事長	指導・助言・評価	済	石川県
佐竹 祐輔	北国銀行・営業統括部 営業サポート課	指導・助言	済	石川県
藤田 徹	㈱PFU 人材開発部長	指導・助言	済	石川県
木村 太郎	カタニ産業㈱ 開発営業リーダー	指導・助言	済	石川県

（2）-①事業実行委員会（構成員（委員）の氏名（上記（2）の者うち本委員会構成員））

氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
大薮 多可志	国際ビジネス学院・学院長	指導・助言	済	石川県
塩谷 雅弘	金沢大学人間社会学域経済学類・准教授	指導・助言	済	石川県
捧 富雄	金沢星稜大学経済学部・特任教授	指導・助言	済	石川県
長谷川 孝徳	北陸大学未来創造学部・教授	指導・助言	済	石川県
吉田 國男	石川県産業教育振興会・会長	指導・助言・評価	済	石川県
藤村 茂	北陸化成株式会社・専務取締役	商品開発	済	石川県
飯山 晄朗	一般社団法人 人財開発フォーラム・理事長	指導・助言・評価	済	石川県
佐竹 祐輔	北国銀行・営業統括部 営業サポート課	指導・助言	済	石川県
藤田 徹	㈱PFU 人材開発部長	指導・助言	済	石川県
木村 太郎	カタニ産業㈱ 開発営業リーダー	指導・助言	済	石川県
浦 一正	石川県立輪島高等学校・校長	連携・協力	済	石川県
山田 康雅	石川県立七尾東雲高等学校・校長	連携・協力	済	石川県
細道 政洋	石川県立小松商業高等学校・校長	連携・協力	済	石川県
山本 正弘	石川県立金沢商業高等学校・校長	総括・委員長	済	石川県

前田　一弘	石川県立金沢商業高等学校・副校長	総括・副委員長	済	石川県
山本　民夫	石川県立金沢商業高等学校・教頭	総括・対外事務・委員	済	石川県
瀧田　直樹	石川県立金沢商業高等学校・事務長	総括・会計・委員	済	石川県
南　　誠治	石川県立金沢商業高等学校・主幹教諭	総括・対外事務・委員	済	石川県
竹川　晃代	石川県立金沢商業高等学校・教諭	ツーリズムU長・委員	済	石川県
広田　　梢	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U長・英語・委員	済	石川県
中山　和夫	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U長・委員	済	石川県
伊勢 美奈子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U長・委員	済	石川県
田畑 龍一郎	石川県立金沢商業高等学校・教諭	マーケU長・ﾂｰﾘ・委員	済	石川県
上田　正弘	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報U長・委員	済	石川県
六反田 雅宏	石川県教育委員会学校指導課・課長補佐	指導・助言	済	石川県

（3）下部組織（設置は任意）

名称（運営委員会）				
氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
山本　正弘	石川県立金沢商業高等学校・校長	総括・委員長	済	石川県
前田　一弘	石川県立金沢商業高等学校・副校長	総括・副委員長	済	石川県
山本　民夫	石川県立金沢商業高等学校・教頭	総括・対外事務・委員	済	石川県
瀧田　直樹	石川県立金沢商業高等学校・事務長	総括・会計・委員	済	石川県
南　　誠治	石川県立金沢商業高等学校・主幹教諭	総括・対外事務・委員	済	石川県
上田　正弘	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報U長・委員	済	石川県
田畑 龍一郎	石川県立金沢商業高等学校・教諭	マーケU長・ﾂｰﾘ・委員	済	石川県
竹川　晃代	石川県立金沢商業高等学校・教諭	ツーリズムU長・委員	済	石川県
伊勢 美奈子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U長・委員	済	石川県
広田　　梢	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U長・英語・委員	済	石川県
中山　和夫	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U長・委員	済	石川県
石野　聡美	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U・委員	済	石川県
帯山 俊一郎	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U・委員	済	石川県
川端　淑子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U・委員	済	石川県
三盃　　滋	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U・委員	済	石川県
田中 佳世子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U・委員	済	石川県
久田　充子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U・委員	済	石川県
高島　雅道	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U・委員	済	石川県
北村　由美	石川県立金沢商業高等学校・教諭	ツーリ・マーケU・委員	済	石川県
笹倉　美帆	石川県立金沢商業高等学校・教諭	ツーリU・委員	済	石川県
北村　浩之	石川県立金沢商業高等学校・教諭	マーケU・委員	済	石川県
中川　勝己	石川県立金沢商業高等学校・教諭	マーケU・委員	済	石川県

荒木　　徹	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U・委員	済	石川県
片倉　日和	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U・委員	済	石川県
木村　貴子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U・委員	済	石川県
土田　清仁	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U・委員	済	石川県
本田　雅人	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U・委員	済	石川県
喜多　瑛世	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報U・委員	済	石川県
倉山　正博	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報・マーケU・委員	済	石川県
橘　　弘司	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報・マーケU・委員	済	石川県
小木　法子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報U・委員	済	石川県
吉田　誠博	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報U・委員	済	石川県
中山　由紀	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報U・委員	済	石川県
東方　直子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	マーケU・委員	済	石川県
前田今日子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	マーケU・委員	済	石川県
平野　活彦	石川県立輪島高等学校・教頭	連携・協力	済	石川県
笠間　清秀	石川県立七尾東雲高等学校・教頭	連携・協力	済	石川県
北本　泰則	石川県立小松商業高等学校・教頭	連携・協力	済	石川県
六反田 雅宏	石川県教育委員会学校指導課・課長補佐	指導・助言	済	石川県
杉本　勝弘	石川県教育委員会学校指導課・指導主事	指導・助言	済	石川県

（3） 下部組織 （設置は任意）

名称（ユニット長会議）				
氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
山本　正弘	石川県立金沢商業高等学校・校長	総括・委員長	済	石川県
前田　一弘	石川県立金沢商業高等学校・副校長	総括・副委員長	済	石川県
山本　民夫	石川県立金沢商業高等学校・教頭	総括・対外事務・委員	済	石川県
南　　誠治	石川県立金沢商業高等学校・主幹教諭	総括・対外事務・委員	済	石川県
竹川　晃代	石川県立金沢商業高等学校・教諭	ツーリズムU長・委員	済	石川県
北村　由美	石川県立金沢商業高等学校・教諭	ツーリ・マーケU・委員	済	石川県
広田　　梢	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U長・英語・委員	済	石川県
中山　和夫	石川県立金沢商業高等学校・教諭	会計U長・委員	済	石川県
上田　正弘	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報U長・委員	済	石川県
橘　　弘司	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報・マーケU・委員	済	石川県
田畑 龍一郎	石川県立金沢商業高等学校・教諭	マーケU長・ツーリ・委員	済	石川県
倉山　正博	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報・マーケU・委員	済	石川県
伊勢 美奈子	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U長・委員	済	石川県
高島　雅道	石川県立金沢商業高等学校・教諭	外国語U・委員	済	石川県

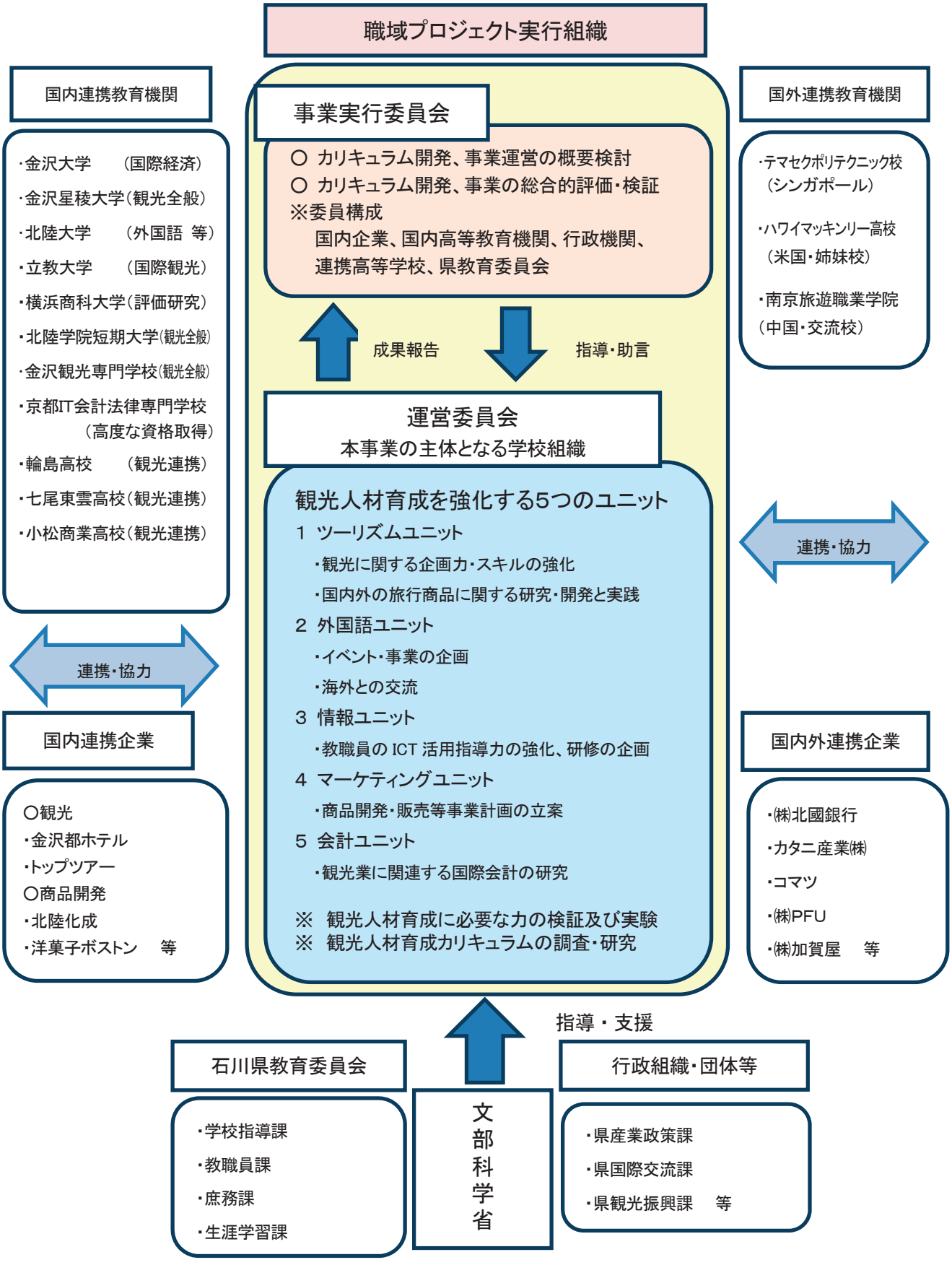
（3）下部組織（設置は任意）

名称(調査分析・編集委員会)				
氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
櫻井　晃	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
中町　和弘	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
守　朋広	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
山谷　文彦	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
河上　康一	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
八田　昌久	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
横井　良成	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
柳生　敦志	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
小坂　慎吾	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
斉藤　智之	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
坂本　良平	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
田中　幸一	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
長山　健一	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県
山田　斉	石川県立金沢商業高等学校・教諭	調査分析・編集委員	済	石川県

（3）下部組織（設置は任意）

名称(研究提案委員会)				
氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
山本　民夫	石川県立金沢商業高等学校・教頭	総括・対外事務・委員	済	石川県
南　誠治	石川県立金沢商業高等学校・主幹教諭	総括・対外事務・委員	済	石川県
丸山　大輔	石川県立金沢商業高等学校・教諭	研究提案委員	済	石川県
寺岡　愛	石川県立金沢商業高等学校・教諭	研究提案委員	済	石川県
矢木 総一郎	石川県立金沢商業高等学校・教諭	研究提案委員	済	石川県
高田　貴裕	石川県立金沢商業高等学校・教諭	研究提案委員	済	石川県
金城　美咲	石川県立金沢商業高等学校・教諭	研究提案委員	済	石川県
宮村　徹	石川県立金沢商業高等学校・教諭	研究提案委員	済	石川県
喜多　瑛世	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報U・委員	済	石川県
倉山　正博	石川県立金沢商業高等学校・教諭	情報・マーケU・委員	済	石川県
笹倉　美帆	石川県立金沢商業高等学校・教諭	ツーリU・委員	済	石川県

（4）事業の実施体制図（イメージ）



6. 事業の内容等

（1）事業の目的・概要

本事業では、グローバル社会に対応できる観光人材の育成について、高等学校教育の視点で考察し、観光人材育成カリキュラム※1の開発を行う。

事業は、観光業に必要な力を「ツーリズム」、「マーケティング」「外国語」、「情報」、「会計」の５つに分類し、それぞれの強化ユニットの取組を中心として行う。その実践的な取組は、国内外の企業、高等教育機関、専門高校等と連携して実施し、その成果をカリキュラムとして統合する。

※1　観光人材育成カリキュラム

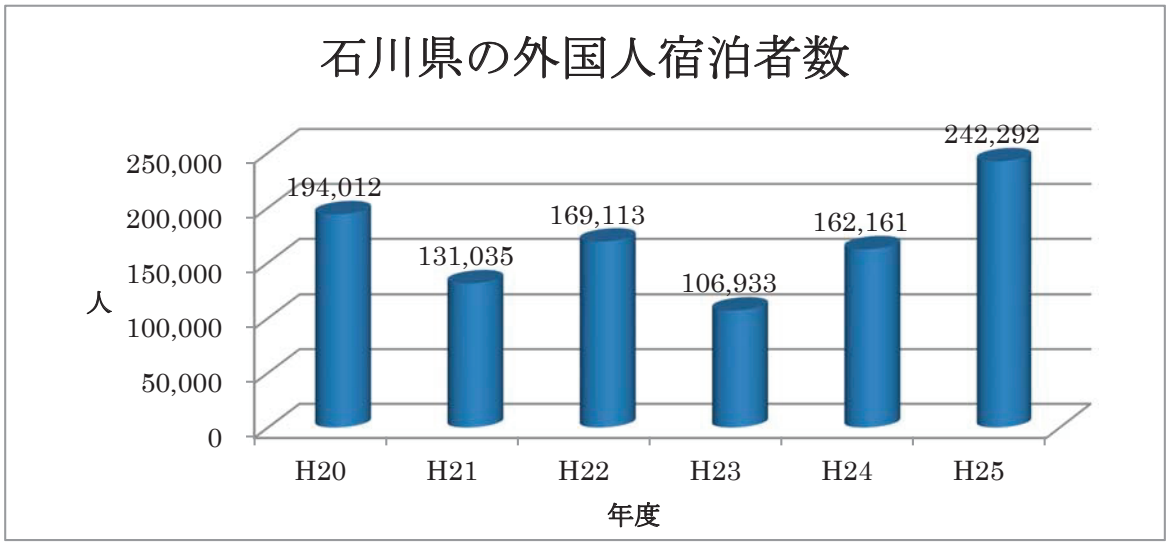
観光人材を広義の概念で捉え、旅行関連業務に加え、旅館業や運輸業、販売業なども含む幅広い業種で考える。特に本県では、サービス業全体が観光業に関連していると考える事ができる。

（2）事業の実施意義や必要性について

① 当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義

2020 年の東京オリンピックを控え、グローバルなホスピタリティが求められる中、2015 年 3 月の訪日外客数は、前年同月比 45.3%増の 152 万 6 千人を記録した。特に本校の地元石川県においては3月の北陸新幹線開業以来、観光地は国内外の観光客で賑わいを見せている。この活況を一時的なもので終わらせず、入り込み客の満足度を高め、リピーターとして確保していくことはもちろん、口コミ（紹介意向）による一層の観光客増を目指していかなくてはならない。観光による交流人口の増加は、高い経済効果を生み出し、これからの人口減少時代の経済縮小を補充することが可能となってくる。そのためにも、様々な観光客に対応できるホスピタリティと外国語でのコミュニケーションスキルを身につけた人材の育成が急務となっている。

また、東アジアや東南アジアでの経済発展やビザの緩和などの影響もあり、外国人観光客の中でも特にアジア系の観光客が目立っている。平成 25 年度の本県への海外からの入り込み状況は平成 24 年度比 149.4%の 24 万 2 千人であり、兼六園の平成 26 年度外国人の入園者数 229,080 人の内、下表の台湾～インドネシアの合計は 177,571 人で 78%を占めている。加えて、県内企業の東南アジア進出や、アジア系資本の取り込みを目指す上でも、今まで以上にアジアに目を向けた取り組みが必要となっている。このような状況を踏まえ、単に会話としてのコミュニケーションではなくビジネス英語やコンピュータリテラシーを備え、海外取引の知識をも身につけた人材の育成を目指したい。



※　H23年度　東日本大震災

平成26年度外国人の兼六園入園者数		
国名	H26(1～12 月)	対 H25 比
台湾	127,925 人	116.2%
中国	6,731 人	147.0%
韓国	5,292 人	76.5%
香港	19,097 人	103.4%
タイ	4,662 人	106.4%
マレーシア	3,148 人	226.3%
シンガポール	5,612 人	111.7%
インドネシア	5,104 人	156.2%
米国	10,018 人	120.0%
欧州	19,768 人	141.8%
その他	21,723 人	138.3%
計	229,080 人	119.3%

【石川県観光戦略推進部より】

②取組が求められている状況、本事業により推進する必要性

3 月の北陸新幹線開業により、本県への入り込み客数は前年度までに比べ大幅に増加している。本年のGW期間中の兼六園、金沢城への入り込み状況は昼間 290,989 人（前年度同期比約 1.7 倍）夜間も加えると 338,753 人となり、前年度比約 2 倍となっており、この開業効果を持続させるためにも石川県の魅力を効果的に発信できる即戦力が求められている。

（参考）入込状況

【北陸新幹線利用客数】（3/14～31、上越妙高～糸魚川間）
約 49 万人（前年同期在来線乗車人数比 約 2.7 倍）

【兼六園・金沢城公園】（3 月の週末（開業後）、夜間のライトアップ入場者数除く）
約 13 万人（前年同期比 約 1.8 倍）

【観光案内所(金沢駅構内)】（3/14～31）
約 4 万 9,700 人（前年比 約 3.5 倍）

【GW 期間中（4/25(土)～5／6（水）（12 日間）※）の兼六園・ 金沢城の入込状況】

（※H26 年は 4/26（土）～5/6（火）（11 日間））

○昼間のみ　290,989 人（前年同期比 約 1.7 倍）

○夜間のライトアップ、プロジェクションマッピング入場者含む 338,753 人（前年同期比約 2 倍※）

※ただし、ライトアップ、プロジェクションマッピングは H27 のみ

【石川県観光戦略推進部より】

このような状況の下、商業高校としての本県随一の伝統を誇る本校の果たすべき役割は大きい。本校総合情報ビジネス科（商業単科）では毎年 60%弱の生徒が就職し、その内 95%以上が県内で就職しており、上級学校に進学した生徒もその多くが地元企業に就職するという意味においても、石川の観光の振興と、グローバル化する企業で役立つ人材の育成が責務である。そのためには、ホスピタリティの心を持ち、ふるさと石川の魅力を積極的に発信できるグローバルなコミュニケーション能力と、海外商取引に対応しうる情報活用･発信能力やビジネスス

キルを育成したい。商業専科の特性である簿記、会計の知識をバックボーンとし、ビジネス英語やコンピュータによる情報活用能力の育成を特化するとともに、商品開発や旅行企画の実施等を通し豊かな創造力をも育み、グローバル社会の中でのローカル経済に貢献できる人材の育成を目指したい。

③取組実施にあたっての平成 26 年度までに実施された職域プロジェクト等の成果の活用方針、方法等

［1］ 海外の専門高校との交流を通した実践

◎ テマセクポリテクニック（シンガポール）※2 との交流基盤の活用

⑴シンガポールでの交流（10月下旬に実施予定）

・ホスピタリティ＆ツーリズムマネージメントコースの授業受講

・国際的な旅行商品の開発

日本向け海外商品開発のため、シンガポール市内を一緒にフィールドワークをし、プランを企画する。

・本校開発商品のテストマーケティングを現地で行う。

⑵石川での交流（9～10月上旬に実施予定）

・本校商業科目（観光関連）の授業受講［本校教諭による授業］

・海外向け国内旅行プランの実施（石川を案内）

［2］ デュアルシステムによる企業実習の継続・発展

・観光分野について幅広く捉え、ホテル・旅館の宿泊業、土産物販売等のサービス業関係を充実させる。

［3］ 観光業を実践的に体験するツアーの実施と改善

・26年度の反省を活かし、金沢を案内する周遊バスツアーを実施

→ 平成28年の全国産業教育フェア石川大会においてその最終形を目指す。

［4］ グローバル化を意識した高度な資格取得の奨励

・活動主体となる2年生を主な対象として、海外旅行業務を担当する力を問う総合旅行業務取扱管理者試験の取得を目指す。また、TOEIC受験を継続実施し英語スキルを検証する。

・国際会計検定（BATIC）については、3年生を中心に受験し、アカウンタントレベルに到達する生徒数を増やす。また、2年生に対しては報告会等により、次年度に向けて興味・関心が高めるように指導する。

［5］ カリキュラム開発に向けた取組

・昨年度収集した、国内外の専門高校及び高等教育機関のカリキュラムを分析し、高等学校における観光人材育成カリキュラムについて考察する。

［6］ 教職員の資質向上

・新しいカリキュラムの実施に必要となる教職員の資質について、5つの学習ユニットの活動を通して考察し、質の高い教育を提供するための教職員の資質向上に努める。

※2 テマセクポリテクニック（シンガポール）

・ポリテクニックは、シンガポールにある専門高校で、基本的に17歳～19歳の生徒が在学する。カリキュラムは、専門教育を中心に行っており、その専門性は高い。テマセク校とは、文部科学省の研究事業を契機として交流が始まり、昨年度は、金沢商業高校の生徒が現地で行った石川の観光をアピールする英語でのプレゼンテーションを受け、年度末に45名の学生と3名の教員が1週間に渡り石川県を訪問し、交流を深めた。

・平成27年度は、専門教育（観光）を基調とした専門性の高い交流を行い、国際的な観光人材を育成するカリキュラム開発につなげたい。

（3）前年度までの取組概要・成果と本事業との継続性

（平成25年度事業）

なし

（平成26年度事業）

① 取組概要

[1] ツーリズム（旅行業）に関する企画力・コミュニケーションスキルの強化

・国内外の旅行商品に関する研究・開発とツアーの実践

・海外での観光誘致のプレゼンテーションの実施

・海外の高校生向け旅行プランの作成、実施

[2] グローバルなコミュニケーションスキルの強化

・国内外での語学研修を中心としたコミュニケーションスキルの強化

・海外の学生との英語によるコミュニケーションの強化

[3] 起業家精神を持った人材の育成（国内外における商品開発の企画力と販売力の強化）

・海外進出企業と連携したオリジナル商品の開発と販売に関する研究

[4] グローバルな視点での資格取得の研究

・総合旅行業務取扱管理者試験や国際会計等の資格への取り組みを通し、海外でのビジネスに伴う諸問題について考える

[5] 長期型企業実習（デュアルシステム）モデルの調査・開発および実践

・学校での学習と連携した長期型企業実習の実施

[6] 旅行客の動向調査及び観光関連企業（観光地・旅館ホテル・販売業等）の動向調査

[7] 成果発表会や報告書の配布による事業成果の普及

② 事業成果

[1] ツーリズム（旅行業）に関する企画力・コミュニケーションスキルの強化

・一般客を対象とした金沢市内の周遊ツアーや県外の修学旅行生の誘致、高校生ガイドの実施を通して、旅行業に必要な企画力やコミュニケーションスキルを向上させることができた。

・テマセクポリテクニック（シンガポール）との観光を起点とした交流基盤の確立し、観光に関する情報交換を行うことができた。

・観光を学習する大学生等とのフィールドワークを通して、石川の観光資源の開発を行う事ができた。

・シンガポールの生徒が石川県で滞在する旅行プランの作成を通して、地元の観光資源を活用した外国人向け旅行商品の企画と実証を行う事ができた。

[2] グローバルなコミュニケーションスキルの強化

・現地（シンガポール）での英語による石川の観光PRを行い、シンガポールの生徒が来県した際には英語で交流を行い、市内探索の観光ガイドを務めた。これらの活動を通し、英語スキル、コミュニケーション能力のアップにつながった。
・シンガポールとネットを通じてリアルタイムで交流できたことにより、海外に関する関心が大いに高まった。
・海外への関心が高まり、2年次にハワイで行う語学研修（カリキュラム選択者）の希望者が大幅に増加した。
・海外ビジネスに向け、TOEICスコア向上に取り組み、一定の成果を上げることができた。

[3] 起業家精神を持った人材の育成（国内外における商品開発の企画力と販売力の強化）
・シンガポールに進出している企業の指導のもと、石川の伝統産業を取り入れた海外向け商品開発を行う実践を通し、海外にビジネスチャレンジする起業家精神の育成につなげることができた。

[4] グローバルな視点での資格取得の研究
・総合旅行業務取扱管理者試験やBATICなどの海外のビジネスで役立つ資格に取り組み、合格者を出すことができた。
・海外で通用する資格の研究を通して、グローバル人材を育成するカリキュラムについて考える事ができた。

[5] 長期型企業実習（デュアルシステム）モデルの調査・開発および実践
・学校の授業と連携した10日間の長期型実習（2年選択希望者）をホテル等で実施し、学校設定科目として増加単位の認定を行った。

[6] 旅行客の動向調査及び観光関連企業（観光地・旅館ホテル・販売業等）の動向調査
・北陸新幹線の開業による観光客等の動向を分析するため、旅行客及び観光関連企業に対し開業前に調査を実施した。

[7] 成果発表会や報告書の配布による事業成果の普及
・県内外の関係者や観光を学ぶ高等学校等を招き、生徒による成果報告会と研究協議会を開催した。
・全国の専門学校のシンポジウムにおいて、海外交流やカリキュラム研究等の成果を発表した。
・石川県産業教育フェアにおいて市内観光ガイドを実施し、一般県民に高校における観光教育についてアピールすることができた。
・本校の取組に触発され、県内において平成27年度から新たに観光科目を取り入れる学校が出てきた。

③ 本年度事業との継続性・関連性（成果を本年度の取組にどのように活用するのか）
[1] ツーリズム（旅行業）に関する企画力・コミュニケーションスキルの強化
・一般客を対象とした金沢市内の周遊ツアーや県外の修学旅行生の誘致、高校生ガイドについては、その実践の成功事例や失敗事例が蓄積されてきた。効率的な実施に向け、手順等のマニュアル化を行い、他校が活用できる汎用性を高めたい。
・テマセクポリテクニック（シンガポール）との観光を起点とした交流基盤を有効に活用し、観光教育（特に授業）を中心に専門性の高い交流を目指したい。
・観光を学習する大学生等とのフィールドワークを継続し、若者の視点、海外の観光客の視点を含めた石川の

観光資源の開発を行いたい。

・今年度来県するシンガポールの生徒は、観光教育を学ぶ生徒であるので、調査研究をしっかりと行い、より海外旅行者（特に若者）のニーズに合った旅行プランを構築できるようにしたい。

[2] グローバルなコミュニケーションスキルの強化

・シンガポールのポリテクニックにあった、国際交流広場（グローカル・コネクト・ビレッジ）を本校にも開設し、生徒が、外国の人とコミュニケーションできる機会の向上に努めたい。

・今年もシンガポールやハワイの高校生との現地での交流を深め、外国語（英語・中国語）によるコミュニケーション能力の向上に努めたい。

・シンガポールやハワイとインターネットを通じたリアルタイムの交流を授業や課外活動で活用したい。

・海外ビジネスに向け、TOEICスコア向上に取り組みを継続したい。

[3] 起業家精神を持った人材の育成（国内外における商品開発の企画力と販売力の強化）

・昨年度、シンガポール進出している企業の指導のもと、石川の伝統産業を取り入れて海外向けに開発したオリジナル商品の販売を行いたい。既にいろいろな障壁が持ち上がっているが、それを克服する方策も考えて行きたい。

[4] グローバルな視点での資格取得の研究

・総合旅行業務取扱管理者試験やBATICなどの海外のビジネスで役立つ資格への取り組みについては、昨年度の成果（合格者）の継続を目指すが、併せて、検定の有効性と発展性についても検証し、カリキュラムに導入する取捨選択についても考察したい。

[5] 長期型企業実習（デュアルシステム）モデルの調査・開発および実践

・学校の授業と連携した10日間の長期型実習（2年選択希望者）をホテル等で実施し、その有効性の向上について実習先の企業とともに考え、改善して行きたい。

[6] 旅行客の動向調査及び観光関連企業（観光地・旅館ホテル・販売業等）の動向調査

・昨年度、生徒が実施した金沢駅での観光客の動向調査及び、金沢市内のホテル旅館の利用客数、おみやげ販売店などの売上高について、継続して動向を調査し、新幹線開業前後の変化を研究・分析したい。

[7] 成果発表会や報告書の配布による事業成果の普及

・昨年度は、金沢商業高校の成果発表を中心に報告会と研究協議会を実施したが、今年度は、県内外の関係者や観光を学ぶ高等学校等を招き、それぞれの学習成果を発表し、共有するシンポジウムとしたい。

・高等学校における観光人材育成カリキュラムについて、幅広く意見を徴集し、まとめて行きたい。

※ 平成26年度の成果の公開状況（web ページのアドレス）

http://26monka-itaku.net/kanko/

http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~shough/NC2/htdocs/

※　平成26年度実績報告書（収支精算書除く）→　別途添付

（4）事業の成果目標

期待される活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)

1　活動指標（アウトプット）

（1） グローバル観光人材を育成するカリキュラム（教育課程）の調査・研究（5つの強化ユニット）

（2） グローバル観光人材の育成につながる資格取得の研究（5つの強化ユニットによる資格取得の研究）

・総合旅行業務取扱管理者試験（ツーリズム）[生徒 15 名]、TOEIC(外国語)[生徒 15 名]、BATIC[国際会計]（会計）[生徒 25 名]など

（3） 海外の提携校での授業参加（双方向）[海外より 45 名、教師 3 名]、[本校より生徒 16 名、教師 4 名]、海外の姉妹校との語学交流

（4） 地域を紹介する高校生ガイドツアーの実施[生徒 36 名]及びパンフレット等[1000 部]の作成

（5） 学校の授業と企業の実習を関連付けた、デュアルシステムによる企業実習の実施[生徒 14 名]

（6） 地域の観光業の振興に関する調査研究[約 100 社及び観光客約 350 名を対象]

・北陸新幹線の開業事前事後のアンケート調査と分析　など

（7） 報告書による事業成果の周知、関係教材等の開発、実習実施マニュアルの作成[200 部]

（8） 観光教育シンポジウムの開催[県外観光教育実施校から 20 名及び本校生徒 830 名を対象]

（9） 評価についての調査研究（PROG の活用[観光選択者 30 名]、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価[シンガポール研修参加者を含む約 45 名で実施]

2　成果実績（アウトカム）

（1） グローバル観光人材育成カリキュラムの開発[観光選択者の増加 25 名以上]

（2） グローバル観光人材の育成につながる資格取得の検証と教材の開発[旅行業務取扱管理者受験数の増加 10 名以上]

（3） 海外の高校との交流を通した人材育成の進展と検証[海外語学研修参加者の増加 35 名以上]

（4） 実践的な観光業の体験による人材育成の検証、実施マニュアルの作成[ツアー実施数の増加 5 校]

（5） デュアルシステム等の実践を通じた人材育成プログラムの開発[観光関連企業の受け入れ数増加 5 社]

（6） 地域の観光資源や観光産業を発掘し、紹介[修学旅行生受け入れ数の増加 10 校]

（7） 観光産業への理解の深まりとグローバル観光人材の創出[旅行会社への就職者および観光系大学への進学者の増加]

（8） 観光教育に関する学習や活動の共有と進展[高大連携校の増加5校以上]

（9） グローバル観光人材を育成するプログラムの検証と改善[教育課程の一部変更による観光選択者の増加]

（5）事業の実施内容

① 会議（目的、体制、開催回数等）

[1] 事業実行委員会

目　　的：事業運営の概要検討、総合的評価と検証

体　　制：企業、大学、短大、専門学校、行政機関、連携高等学校、県教育委員会　等

開催回数：2回（9月、2月）

[2] 運営委員会

目　　的：事業運営等の具体的な検討、実際の運営

体　　制：本校教職員、県教育委員会

開催回数：4回（7月、10月、12月、2月）

[3] ユニット長会議

目　　的：運営計画及び調整、カリキュラムの検討、イベントの運営

体　　制：本校教職員

開催回数：6回（7月、9月、11月、1月、2月、3月））

[4] ユニット会議

目　　的：5つのユニット毎に、カリキュラム開発・研究、学習計画、外部指導者との連絡調整

体　　制：本校教職員

開催回数：必要に応じて随時開催

[5] 調査分析・編集委員会

目　　的：各ユニットから要請のある「アンケート調査、研究分析、報告書の編集」等

体　　制：本校教職員

開催回数：随時開催

[6] 研究提案委員会

目　　的：次年度以降の研究及び取組みを企画・提案する

体　　制：本校教職員

開催回数：2回（11月、12月）

② 調査等（目的、対象、規模、手法、実施方法等）

[1] 海外でのテストマーケティング（旅行商品）

目　　的：グローバル人材及び観光人材育成プログラムを作成するため

対象・規模：シンガポール　テマセクポリテクニック校の学生（約100名）

手　　法：旅行商品に関する調査を行うとともに、昨年度開発した商品に関して意見交換を行い、アンケート調査を実施する

実施方法：10月に提携校を訪問し実施する

※ 前年度は、日本に興味を持っているシンガポールの生徒（旅行集団）に対し、アンケートを実施。本年は、観光教育を学んでいる生徒を対象としてより専門性の高い調査を行う

[2] 日本の先進校視察

目　　的：観光人材育成プログラムを作成するため

対象・規模：本校教職員2名による国内先進校視察

手　　法：先進校を訪問し、調査を行うとともに今後の共同研究、情報交換等について提案する

実施方法：該当校を訪問し、カリキュラムと評価方法に関する情報を収集する

※ スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール実施高校(H27～)、観光に関する先進校等を訪れ、観光教育、評価方法等について情報を収集するとともに、連携等についても検討する

[3] 生徒に対する調査

目　　的：検定資格等では測りがたい力の検証

対象・規模：(1)PROGテスト → 観光関連科目を選択する生徒約30名を対象。

(2)パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価 → シンガポール研修参加者を含む約 45 名を対象

手　　法：(1)PROGテストを実施し、リテラシー、コンピテンシー両面の力を測る

：(2)評価を行うルーブリックを作成（研究）し、実施する

実施方法：本年度に調査、次年度に継続調査を実施

※ 昨年度行った、アンケート調査から一歩踏み込み、測りがたい力の評価につながる調査を実施し、カリキュラムの評価方法について検証する

[4] 企業に対する調査

目　　的：北陸新幹線開業前と開業後による観光客の変化を調査する

対象・規模：ホテル・旅館、金沢駅内店舗、約100社

手　　法：聞き取り調査及びアンケート用紙の送付

実施方法：事務局で発送・回収・集計分析

※ 前年度に北陸新幹線開業前調査を実施しており、開業後の状況調査と比較分析を行う

[5] 旅行客に対する調査

目　　的：北陸新幹線開業前と開業後による観光客の変化を調査する

対象・規模：金沢駅での観光客約350名

手　　法：金沢駅での聞き取り及びアンケート

実施方法：観光を選択している生徒による聞き取り調査

※ 前年度に北陸新幹線開業前調査を実施しており、開業後の状況調査と比較分析を行う

[6] 高等教育機関に対する調査

目　　的：高大連携による人材育成プログラムの状況等について

対象・規模：関連大学・短大・専門学校20校

手　　法：アンケート用紙の送付

実施方法：事務局で発送・回収・集計分析

※． 高大連携による観光人材育成カリキュラム開発の参考資料とする。

[7] 高等学校に対する調査

目　　的：観光人材育成プログラムについて

対象・規模：観光科目のある全国の高校約20校

手　　法：メールによるアンケート調査

実施方法：事務局で発送・回収・集計分析

※ 観光に関する学習を行っている高校を中心に調査を行い、カリキュラム検討の参考とする

③ モデルカリキュラム基準、達成度評価、教材等作成（目的、規模、実施体制等）

[1] グローバル観光人材育成カリキュラムの開発

目　　的：海外と観光ビジネスを行う事のできる人材を育成する学習プログラムの開発

規　　模：海外研修を希望する生徒（15～17名）および職員（4名）を対象としたシンガポール研修、英会話講座、TOEIC 講座等の実施と対象外生徒への成果の報告を行う

実施方法：海外の高校との交流、調査、実証を踏まえ、県教育委員会と学校現場で開発

概　　要：シンガポール・テマセクポリテクニック校を実践の場として、グローバルな視点での観光に関する学習を行う。具体的には、お互いの授業への参加、両国の観光資源について若者の視点で捉えるフィールドワーク等の実施により、海外交流を踏まえた人材育成カリキュラムについて考える

[2] ツーリズム（旅行業）人材育成カリキュラムの開発

目　　的：ツーリズムに関する人材育成プログラムの作成（カリキュラム、シラバス等を作成）

規　　模：観光に関する学校設定科目を選択した各学年10人～20人の生徒を対象に、ツーリズム（旅行業）に関する学習と実践を行う

実施方法：ツーリズムに関する実践、調査、実証を踏まえ、県教育委員会と学校現場で開発

概　　要：高等学校において、ツーリズム（旅行業）を行う人材を育成するカリキュラムを構築するため、観光に関する学校設定科目の実施や外部人材の活用を通じた実践を行い検証する。本事業では、事業の目的・概要で示したように、広義の観光人材育成をカリキュラム作成の目標とするが、その中心となるツーリズム（狭義の観光）については、学習指導要領で定義される教科、科目でないため、特に綿密なカリキュラム設定、学習内容の定義を行う必要がある。具体的な実践としては次の活動を行う

⑴学外の活動として本県の観光資源を検証するため、大学生とフィールドワーク

⑵観光の学習と結びつけ、観光ツアーを企画するとともに高校生による観光ガイドを実施

[3] 観光人材の育成につながる高度な資格取得に関するカリキュラムの標準化

目　　的：資格取得に関する教材の作成

手　　法：昨年度からの教科指導の経緯をマニュアル化し標準化する

実施方法： 高度な資格取得に関する研究実践、調査、実証を踏まえ、県教育委員会と学校現場で開発

概　　要：総合（国内）旅行業務取扱管理者試験、TOEIC、BATIC等で使用する独自教材の開発と報告

[4] 長期型企業実習（デュアルシステム）モデルプログラムの開発

目　　的：企業の実習と学校の専門教育を結びつけた人材育成プログラムを開発

規　　模：2年生の希望者（約15名）を対象として実施

実施方法：企業での実習、調査、実証を踏まえ、県教育委員会と学校現場で開発

概　　要：デュアルシステムによる人材育成プログラムを構築するため、企業での10日間の実習を実施し、学校での学習科目と関連づけを行うことにより、その相乗効果を図り、成果を検証する。プログラム開発の結果を学校設定科目等のカリキュラム編成に反映し、全生徒が実施可能なものとする（特にコミュニケーションスキルの向上を意識）

④ 実証等（目的、対象、規模、時期、手法、実施方法等）

[1] 海外での旅行商品開発を実施

目　　的：グローバルな視点でのビジネス（観光に関する商品開発等）を行う事のできる人材育成

対処、規模：シンガポールテマセクポリテクニックの旅行業を学ぶ生徒と共同で、旅行商品の開発企画を行う

時　　期：10月に連携校（テマセク）を本校生徒が訪問

実施方法：シンガポールのポリテクニックを訪問し、共同で旅行商品の開発を行う

・本校のシンガポール人向け旅行商品について、プレゼンテーションを行う → 内容の検討

・シンガポールの観光資源についてフィールドワーク等を通して研究後、日本人向け

※ 前年10月に現地を訪れ、石川県の観光プレゼンテーションを行い、石川県の旅行プランの提案を行ったところ、3月にシンガポールより学生45名と教師3名が来県し、本校生徒が本県での旅行プランを企画し、ガイド等を行っている

[2] 観光商品の開発につながるフィールドワークを実施

目　　的：地元の観光資源を活用した観光商品の開発を行うことのできる人材の育成

対処、規模：観光について学ぶ本校生徒と、観光学を学ぶ大学生が共同して行う（20名）

時　　期：9月に本県加賀地区で実施（前年度は能登地区で実施）

実施方法：本県観光資源に関する調査研究を行い、海外からの観光客に対する旅行商品の開発につなげる

[3] 長期型企業実習（デュアルシステム）の実施と実証

目　　的：学校の授業と企業での実習を組み合わせたビジネス分野におけるデュアルシステムプログラムを構築する

対処、規模：協力企業（10社）に14名の生徒が実習を行う

時　　期：8月上旬より10日間（1日8時間）[企業実習]

：4月～9月関連科目の学習[本校]

実施方法：企業での長期実習を10日間実施

企業での実習と関連する教科・科目を学校で実施

企業の実習と学校の授業が連携するプログラムを開発

[4] 目標とする中核人材の育成につながる高度な資格の研究

目　　的：人材育成の手段の一つとして、資格取得を活用する

対処、規模：外国語、会計、情報、マーケティング、ツーリズムの各学習強化ユニット及び希望者80名
時　　期：7月～3月
実施方法：⑴外国語　　→ TOEICの受験（得点の向上）
⑵情報　　→ CompTIA（国際的な情報資格）等の研究（受験）
⑶会計　　→ BATIC（国際会計）の研究（受験）
⑷マーケティング　→ 貿易実務検定等の研究（受験）
⑸ツーリズム　　→ 総合（国内）旅行業務取扱管理者試験の取得

※ 3年間の実験的な人材育成プログラム開発を行い、成果を検証する。（別紙参照）

（6）事業成果及び事業終了後の方針（成果の活用、継続性・関連性、発展性　等）

（事業成果物）
①全国の商業高校で取り組む際の参考となるよう、観光人材及びグローバル人材育成の具体的指導内容をまとめた報告書を作成する。（80 頁 200 冊）
②事業報告書の作成（100 頁 200 冊）
③高校生ガイドツアーパンフレットの作成（見開き 6 頁 1,000 部）
④観光客及び観光業に関する動向調査の結果報告（協力企業 100 社へ郵送配布）

（成果の活用等）
①観光人材育成の取組事例を本校および商業（ビジネス）教育を学ぶ高等学校で活用（県内高等学校 60 校、県外商業および観光を学ぶ高等学校 50 校へ事業報告書を郵送配布、一部HPでの公開）
②デュアルシステムモデルについては、本県及び全国の専門高校にモデルプランとして提示（①と同様）
③商品開発については、前年度から継続した研究として積み上げ、海外の高校との商品開発につなげる（海外提携校の売店で販売、商品についてはHPで公開）
④県産業教育フェア（全国プレ大会）での成果発表（平成27年度）
⑤全国産業教育フェア石川大会での成果の発表（平成28年度）
※平成28年度に本県において全国産業教育フェアが開催される

（7）「女性の学び直し」に対応した取組内容等

（事業実施体制、プログラム構成、環境配慮等、女性の学び直しに対応する取組内容等）

平成２７年度

「成長分野等における
中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業

【職域プロジェクトＢ（観光分野）】

「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」

～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～

石川県立教育委員会

金沢商業高等学校

事業の概要

Ⅰ　事業の概要（背景・取組内容・成果目標・活動指標・活用）

Ⅱ　事業の３年計画

Ⅲ　事業イメージ（主な取組項目）

Ⅳ　事業イメージ（高等学校における観光教育の位置づけ）

Ⅴ　事業イメージ（金沢商業高校における研究体制）

実施内容

Ⅰ　今年度の主な活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　加賀フィールドワーク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

Ⅲ　生徒による修学旅行誘致活動・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

Ⅳ　シンガポールとの交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

Ⅴ　ＰＲＯＧテスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30

Ⅵ　イングリッシュビレッジ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34

Ⅶ　ＢＡＴＩＣ・国際会計基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37

Ⅷ　タブレット端末導入を見据えたＷＥＢテレビ会議・・・・・・・　41

平成27年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業　事業計画概要
【職域プロジェクトB（観光分野）】「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」
～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～　（石川県立金沢商業高等学校）

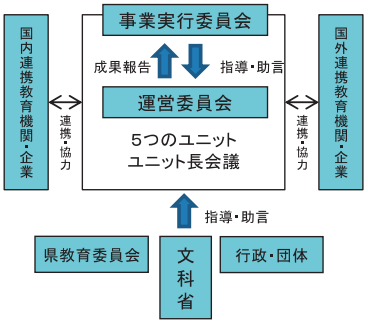
課題・ニーズ・背景・目的

☆ニーズ・背景
〇3月の北陸新幹線開業後、予想以上に観光客数が増加した。この追い風を利用して県や市町においてリピータの増加に向けた取り組みが行われている。観光客の増加に伴い、地域の観光の振興に貢献できるホスピタリティを持った人材の育成が急務である。
〇外国人をはじめとする様々な観光客の満足度を高めるために外国語でのコミュニケーションスキルが求められる。
〇東南アジアへ進出していく企業ニーズに応えるため、グローバルビジネスコミュニケーションスキルを持った人材、海外取引の知識をも持った人材の育成が求められている。
☆26年度に実施した取組と27年度実施事業との関連性
①ツーリズム（旅行業）に関する企画力・コミュニケーションスキルの強化
・実践事例を蓄積し、手順等のマニュアル化を行い、他校が活用できる汎用性を高める。
・テマセクポリテクニック（シンガポール）との観光を起点とした交流基盤を有効に活用し観光教育（特に授業）に基盤をおいた専門性の高い交流を目指す。
②グローバルなコミュニケーションスキルの強化
・国際交流広場（グローカル・コネクト・　ビレッジ）を開設し、生徒が、外国人とコミュニケーションできる環境整備を行う。
・今年度もシンガポールやハワイの高校生との現地での交流やインターネットを通じた交流を深め、外国語によるコミュニケーション能力の向上に努める。
・海外ビジネスに向け、TOEICスコア向上に取り組みを継続したい。
③国内外における商品開発の企画力と販売力の強化
・海外向けに開発したオリジナル商品の販売を行う。既に様々な障壁が持ち上がっているが、それを克服する方策も考えていく。
④グローバルな視点での資格取得の研究
・前年度の成果（合格者）の継続を目指すが、検定の有効性と発展性について検証し、カリキュラムに導入する取捨選択について考察する。
⑤長期型企業実習（デュアルシステム）モデルの調査・開発および実践
・学校の授業と連携した10日間の長期型実習（2年選択希望者）をホテル等で実施し、その有効性の向上について実習先とともに考え、改善する。
⑥旅行客の動向調査及び観光関連企業（観光地・旅館ホテル・販売業等）の動向調査
・前年度、生徒が実施した観光客の動向調査及び、金沢市内のホテル旅館の利用客数、おみやげ販売店などの売上高について、継続して動向を調査し、新幹線開業前後の変化を研究・分析する。
⑦成果発表会や報告書の配布による事業成果の普及
・県内外の関係者や観光を学ぶ高等学校等を招き、それぞれの学習成果を発表し、共有するシンポジウムとする。

平成27年度の具体的な取組内容

①企画・検討
・事業実行委員会において事業運営の概要検討、総合的評価と検証
・運営委員会、ユニット長会議で運営計画及び調整、カリキュラムの検討
②調査
・海外でのテストマーケティング、日本の先進校視察、生徒へのPROG調査、企業・旅行客に対する調査、高等教育機関及び高等学校への調査
③観光人材育成プログラム
・長期型企業実習（デュアルシステム）モデルプログラムの開発
・海外での旅行商品開発の実施
・国内外の旅行商品に関する研究・開発とツアーの実践
・長期型企業実習（デュアルシステム）の実施
・観光商品の開発につながるフィールドワークの実施
④グローバル人材育成プログラムの開発
・国内・外での外国語を中心としたコミュニケーションスキルの強化
・海外でのプレゼンテーションの実施
・国際会計の研究、海外取引に伴う諸問題の解決策の研究
⑤高度な資格に関するカリキュラムの標準化
・高度な資格取得の研究、教育課程へのフィードバック

実施体制イメージ図



参加・協力機関

①教育機関
国内
石川県立金沢商業高等学校
金沢大学、金沢星稜大学、北陸大学、立教大学、横浜商科大学、北陸学院短期大学、金沢観光専門学校、京都IT会計法律専門学校、輪島高校、七尾東雲高校、小松商業高校
国外
テマセクポリテクニック（シンガポール）、マッキンリー高校（ハワイ州）
②産業界
北國銀行、PFU、コマツ、金沢都ホテル、加賀屋、トップツアー、カタニ産業、北陸化成、洋菓子ボストン、北國文化センター
③行政機関
石川県教育委員会
石川県産業政策課、石川県国際交流課、石川県観光振興課、文部科学省

平成27年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業　事業計画概要
【職域プロジェクトB（観光分野）】「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」
～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～　（石川県立金沢商業高等学校）

成果目標（アウトカム）

（1） グローバル観光人材育成カリキュラムの開発
（ツーリズム関係科目の選択者の増加25名以上）
（2） グローバル観光人材の育成につながる資格取得の検証と教材の開発（旅行業務取扱管理者受験者数の増加10名以上）
（3） 海外の高校との交流を通した人材育成の進展と検証（海外語学研修参加者の増加35名以上）
（4） 実践的な観光業の体験による人材育成の検証、実施マニュアルの作成（ツアー実施数の増加5校）
（5） デュアルシステム等の実践を通じた人材育成プログラムの開発（観光関連企業の受け入れ数増加5社）
（6） 地域の観光資源や観光産業を発掘し、紹介（修学旅行生受け入れ数の増加10校）
（7） 観光産業への理解の深まりとグローバル観光人材の創出（旅行会社および観光系大学への進学者の増加）
（8） 観光教育に関する学習や活動の共有と進展（高大連携校の増5校以上）
（9） グローバル観光人材を育成するプログラムの検証と改善（教育課程の一部変更による観光選択者の増加）

活動指標（アウトプット）

（1） グローバル観光人材を育成するカリキュラム（教育課程）の調査・研究（5つの強化ユニット）
（2） グローバル観光人材の育成につながる資格取得の研究（5つの強化ユニットによる資格取得の研究）
・総合旅行業務取扱管理者試験（ツーリズム）[生徒15名]、TOEIC(外国語)[生徒15名]、BATIC[国際会計]（会計）[生徒25名]など
（3） 海外の提携校での授業参加（双方向）[海外より45名、教師3名]、[本校より生徒16名、教師4名]、海外の姉妹校との語学交流
（4） 地域を紹介する高校生ガイドツアーの実施[生徒36名]及びパンフレット等[1000部]の作成
（5） 学校の授業と企業の実習を関連付けた、デュアルシステムによる企業実習の実施（生徒14名）
（6） 地域の観光業の振興に関する調査研究[約100社及び観光客約350名を対象]
・北陸新幹線の開業事前事後のアンケート調査と分析　など
（7） 報告書による事業成果の周知、関係教材等の開発、実習実施マニュアルの作成[200部]
（8） 観光教育シンポジウムの開催[県外観光教育実施校から10名及び本校生徒830名を対象]
（9） 評価についての調査研究（PROGの活用[観光選択者30名]、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価[シンガポール研修参加者を含む約45名で実施]）

平成27年度の成果の活用

①観光人材育成の取組事例を本校および商業（ビジネス）教育を学ぶ高等学校で活用（県内高等学校60校、県外商業および観光を学ぶ高等学校50校へ事業報告書を郵送配布、一部HPでの公開）
②デュアルシステムモデルについては、本県及び全国の専門高校にモデルプランとして提示（①と同様）
③商品開発については、前年度から継続した研究として積み上げ、海外の学校との商品開発につなげる（旅行商品については、お互いに行き来する関係を継続して構築。商品については海外提携校の売店で販売し、HPで公開）
④本県での産業教育フェア(全国プレ大会）での成果発表（平成27年度）
⑤全国産業教育フェア石川大会での成果の発表（平成28年度）
※　平成28年度に本県において全国産業教育フェアが開催される

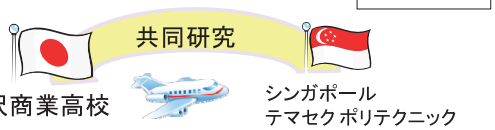
平成27年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業　事業計画概要
【職域プロジェクトB（観光分野）】「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」
～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～　（石川県立金沢商業高等学校）

計画	26年度	27年度	28年度
①海外を意識した基本的なコミュニケーションスキルの向上等に関する研究(外国語・検定等) ②海外の専門高校や高等教育機関、観光を学ぶ高校等のカリキュラム編成の研究 ③高等学校における観光に関するカリキュラム・シラバス等の研究と教材開発 ④企業とのデュアルシステムによる長期型実習の研究とカリキュラムへの導入 ⑤高大連携によるカリキュラムの研究 ⑥高等学校におけるグローバル観光人材の育成に関するカリキュラムの研究の完成と全国への提示	① 海外へのアクセス ② ③ 先行研究 ④ 連携関係の構築 ⑤ ⑥	取組の継続と発展 交流の継続と発展 実習の継続 全国産フェアでの発表	
それぞれの年度における成果	【研究基盤の確立と基本的な調査・研究】 ・海外の専門高校（テマセクポリテクニック）との観光に関する交流基盤の確立 ・観光を学ぶ大学生とのフィールドワーク実施 ・TOEICスコアの向上、総合旅行業務などの海外のビジネスで役立つ資格の取得 ・海外での石川の紹介とインバウンド向け旅行商品の研究 ・10日間の長期型実習を先行実施 ・県外修学旅行生誘致、高校生ガイドの実施 ・石川県産業教育フェアで市内観光を実施 ・旅行客及び観光関連企業に対し新幹線開業前に調査を実施 ・県内外の関係者や観光を学ぶ高等学校等を招き、成果報告会と研究協議会を開催 ・専門学校のシンポジウムでの成果発表	【研究の継続と発展】 ・シンガポールとの交流による研究の進展 ・高校生ガイド（海外の旅客を含む）の充実 ・デュアルシステムの本格的な研究 ・企画観光ツアーの実施と改善 ・海外を意識した総合旅行業務取扱管理者試験等の検定試験への取組の継続、発展、教材の開発 ・前年度収集した、国内外の専門高校及び高等教育機関のカリキュラムを分析し観光人材育成カリキュラムについて考察・検証する ・5つの学習ユニットの活動を通した強化活動の進展 ・県外の観光を学ぶ学校を招き、環境教育シンポジウムを実施 ・活用力など測りがたい力の評価方法の研究（PROGテスト、パフォーマンス評価）	【3年間の研究の集大成】 【1年目、2年目から更に継続・発展させた取組み】 ・観光人材育成カリキュラムによる教育課程の作成及び実施 ・全国の高校への事業成果（観光カリキュラム等）の普及 ・平成28年の全国産業教育フェア石川大会においてその最終形の発表を目指す

【H27文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業（観光分野）】

参考イメージ

「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」
～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～



観光人材育成 モデルカリキュラム	1年次（H26年度）	2年次（H27年度）	3年次（H28年度）	概要・成果
カリキュラム開発	・コミュニケーション英語Ⅰ ・簿記 ・情報処理 先進校の視察と交流	・コミュニケーション英語Ⅱ ・マーケティング ・観光実務Ⅰ ・キャリアワーク　等 共同研究	・アクティブイングリッシュ ・課題研究 ・商品開発 ・電子商取引 ・観光実務Ⅱ　等	観光人材を育成する効果的なカリキュラム開発
高度な資格取得	・簿記2級 ・情報処理2級 ・実用英検2～3級 外部講師の活用 金沢大学、北陸大学、コマツ、北國銀行　等	・国内旅行業務取扱管理者 ・簿記1級 ・情報処理1級 ・実用英検1～2級 高度資格の上級生による先行研究	・総合旅行業務取扱管理者 ・貿易実務 ・BATIC（国際会計検定） ・TOEIC　等	観光人材の基礎を構成する国際的なビジネス資格の取得
学校外での学習 （大学や企業、 海外の高校との連携）	○海外研修（シンガポール） ・共同研究を促すプレゼンの実施 ・交流の提携 テマセクポリテクニック ○フィールドワーク ・観光資源の開拓 星稜大学　等	○観光分野での交流 交流・研究の継続と発展 ○ニューツーリズムの研究	○観光商品の開発 ・モデルツアーの実施 （日本→東南アジア） （東南アジア→日本）	グローバルな視点での観光学の研究と実践
企業での実習	○海外企業の見学 北國銀行・PFU（シンガポール） カタニ産業（マレーシア）　等	○デュアルシステムによる長期型企業実習の実施 加賀屋・金沢都ホテル JTB・トップツアー　等	○グローバルな環境での企業実習の実施 国内外のホテル系企業 シンガポールの日系企業　等	学校の授業と関連づけた実体験による人材育成
調査研究・報告	・ICTによる情報発信 ・報告書の作成と報告会の実施 ・その他観光に関する調査	上級生による先行実施 調査・研究情報発信の継続	○調査データの分析と活用 **※全国産フェアでの発表**	事業に関する情報発信と報告

グローバル化する広義の観光業に対応できる観光人材
・海外との取引を含むアントレプレナーシップ（起業家精神）を持つ人材
・商業の知識やマナーを身につけたホスピタリティの心を持つ人材
・英語をツールとしてコミュニケーションをはかることができる国際感覚のある人材

学び直し

高校卒業後の就職者

短期大学・専門学校等による専門性の深化

専門課程
4年制大学による専門性の深化

高大連携カリキュラム
（各種の講座、合同フィールドワーク、各種の調査等）

高等学校（専門教育）における観光人材育成カリキュラム

卒業後社会に出る生徒に対するカリキュラム
・即戦力となる実務能力の強化　２～３年
・デュアルシステムによる実習　２年

卒業後専門学校等を経て社会に出る生徒に対するカリキュラム
・専門分野における上級資格取得　２～３年
・基礎的なビジネススキル　２年

卒業後4年制大学を経て社会に出る生徒に対するカリキュラム
・上級資格取得を活かした進学　3年
・英語力を活かした進学　3年

ふるさと石川の魅力を発信できるコミュニケーション能力

2年　観光基礎 ＋ 英会話 ＋ プレゼン力 ＋ ホスピタリティ ＋ 企画力　⇔　企業等との連携

1年～　商業の基礎と資格取得（簿記・情報・マーケティング等）　＋　基礎科目：国語・英語

グローバル社会の観光人材育成プロジェクト
～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～

北陸新幹線

小松空港

海外の学校との連携
シンガポールポリテクニック
ハワイマッキンリー高校

石川の観光と伝統産業を海外へ発信

海外のビジネス系学校や海外進出企業との連携

5つの強化ユニットによる観光人材育成の研究

国際的な観光人材の育成

広義の観光

大学・専門学校との連携
大学
・金沢
・金沢星稜
・北陸
・立教
・横浜商科
短期大学
・北陸学院
専門学校
・京都IT会計法律
・金沢観光　等

企業との連携
日本
・金沢都ホテル
・加賀屋
・トップツアー
・コマツ
シンガポール
・北國銀行
・PFU
・カタニ産業 等

貿易実務検定の研究

Marketing（海外ビジネス）
Entrepreneurship（起業家精神）

伝統産業の支援による商品開発
海外企業での研修と商品の販売

総合旅行業務取扱管理者の取得

Tourism（旅行）

国際的な旅行企画の実施

国際会計検定（BATIC）の取得

Accounting（会　計）

国際会計に関する大学との事例研究
国際商取引に伴う会計処理の実践研究

国際情報検定 CompTIAの研究

Computing（情報活用技術）

海外との電子商取引
海外でのプレゼンテーション

TOEICの受験

Language（外国語）

グローバルビジネスでの英会話学習
海外での語学研修

国内の高等学校との連携
・輪島
・七尾東雲
・小松商業
他　県外高校

国・県・市からの支援
・文部科学省
・県教育委員会
・県商工労働部
・県観光戦略推進部

金商ライフサポート株式会社（模擬）【国際部】による海外ビジネスへの挑戦

今年度の主な活動

７月	㊚長期型企業実習（デュアルシステム　7/6～10、7/21～27 の 10 日間） ㊟修学旅行観光ガイドの実施（7/1　加賀中学校、7/26 聖ヶ丘中学校） ㊟企業と連携し、観光ガイドツアー企画（日本ツアーシステム㈱） ㊟全国観光教育研究大会（佐賀県　7/30,31） ㊝ＢＡＴＩＣ受験講座開始 ㊡楽天と連携し、商品販売の着手
８月	㊞外部機関と連携し、英会話講座（北國文化センター　8/3～9/18 まで 10 回実施） ㊟修学旅行観光ガイドの実施（8/27　川村学園中学校） ㊟高校生ガイドパンフレット作成
９月	㊟大学と連携し、加賀フィールドワークの実施（金沢星稜大学、北陸学院短期大学部、国際ビジネス学院　加賀１泊２日 9/12,13） ㊟国内旅行業務取扱管理者試験受験(9/6) ㊟㊞シンガポール提携校と交流（石川県にて　9/25～10/2） ㊝大学と連携し、国際会計講座の実施①（海外財務諸表・外国為替　9/19）
１０月	㊟総合旅行業務取扱管理者受験（10/11） ㊚シンガポール提携校と現地交流、旅行プランの企画（ﾃﾏｾｸﾎﾟﾘﾃｸﾆｯｸ　10/29～11/4） ㊡海外テストマーケティング（ﾃﾏｾｸﾎﾟﾘﾃｸﾆｯｸ） ㊟修学旅行観光ガイドの実施（10/15 神戸女学院、10/16 麻布中学校） ㊝大学と連携し、国際会計講座の実施②（海外財務諸表・外国為替　10/21） ㊟企業と連携し、観光ガイドツアー（金沢）の実施（日本ツアーシステム(株)10/23,24）
１１月	㊟企業と連携し、国内旅行プランの作成（日本ツアーシステム(株)） ㊟高校生ガイドパンフレット完成 ㊞大学と連携し、ＴＯＥＩＣ講座の実施（北陸大学　11/6～1/29 まで 12 回実施） ㊟修学旅行観光ガイドの実施（11/13　春日新田小学校） ㊞語学研修（ハワイ姉妹校　２年　11/22～27）
１２月	㊟関東での修学旅行誘致活動（12/17,18） ㊝ＢＡＴＩＣ受験(12/12) ㊟全国観高サミット（長崎国際大学　12/19）
１月	㊟企業と連携し、海外旅行プランの企画 ㊡楽天ＩＴ学校甲子園出場（東京　1/15）
２月	㊚研究発表会（本多の森ホール　2/12） ㊟企業と連携し、国内旅行プランの実施（日本ツアーシステム(株)　2/13） ㊟企業と連携し、国内向け海外旅行商品の企画
３月	㊞ＴＯＥＩＣ受験 ㊚シンガポール提携校と交流（石川県にて）

※　㊚…全ユニット対象　㊡…マーケティングユニット対象
　　㊟…ツーリズムユニット対象　㊝…会計ユニット対象　㊞…外国語ユニット対象

『シンガポール研修』

GLOBAL　CONNECT　VILLAGE

授業（シンガポールの民族文化）

校舎案内

石川県のプレゼン

金沢商業授業（商品開発）との中継

日本のお菓子の紹介

ホスピタリティ＆ツーリズムの授業

折り紙指導

『加賀フィールドワーク』

そば打ち体験

鶴仙渓川床にて昼食

粟津温泉「法師」にて講話

『修学旅行誘致活動』

石川県首都圏誘客推進室の担当者

東京都豊島区の中学校

『修学旅行ガイド』

小学生ガイド

中学生ガイド

『観光ガイドツアー』

ガイドの様子（兼六園）

ガイドの様子（主計町）

バスガイド

Ｈ２７年度　ガイド日程

５月１８日（月）　午前１２：００～１３：００　　立教池袋中学校　３年生　３７名＋教員２名
兼六園・金沢城公園　　３年生　１１名（２～５限公欠）

５月２６日（火）　午前１０：００～１１：４０　　福井市至民（しみん）中学校２年生　１５０名　１５班
兼六園・金沢城公園→中央公園　　２，３年生　３４名（１～４限公欠）

５月２７日（水）　午後１２：００～１３：００　　泉大津市立小津中学校　３年生　１６班編成
兼六園・金沢城公園　　１，２，３年生　３６名（３～５限公欠）

５月２８日（木）　午後１３：４５～１４：４５　　多摩大学付属聖ヶ丘中学校　教員視察１名
兼六園・金沢城公園　　３年生１名（５，６限　課題研究の授業で）

６月１９日（金）　午前９：００～１１：００　大阪鯰江中学校　３年生　１６０名　前後半で各１２班
兼六園（３０～３５分間）　　２，３年生　３２名（２～４限公欠）

７月　１日（金）　午前１１：３０～　　東京都板橋区立加賀中学校　約１５０名
兼六園　　２，３年生　３４名（考査終了後）　２４班構成

７月２２日（水）　１３：３０～１４：３０　　ＪＴＢの教育旅行担当者（営業系）　１５名
兼六園・金沢城公園　　３年生　２名（２班）　川端、山岸

７月２６日（日）　１４：００～１５：３０　　東京都多摩大学付属聖ヶ丘中学校　　４５名
兼六園・金沢城公園　　２，３年生　　７名（７班）

７月２７日（月）　１０：２０～１１：２０　　東京都豊島区校長先生視察　９名
兼六園・金沢城公園　　１年生　２名　　村田、舟橋

８月　７日（金）　１０：２０～１１：２０　　旅行会社の教育旅行担当者（複数募集予定）　１１名
兼六園・金沢城公園　　２年生　２名（２班）　落合、
１２：４０～１３：３０　　神奈川県海西中学校下見　　３名
兼六園・金沢城公園　　２年生　１名　馬替

８月２７日（木）　　９：１０～１０：１０　　早稲田大学　高等学院　教員下見１名
兼六園・金沢城公園　　２年生　１名　喜多
１５：００～１７：１５　　東京都川村学園中学校　９０名（９班構成）
兼六園・金沢城公園　　１，２，３年生　１８名

８月３１日（月）　８：３０～１０：００の間で１時間　　東京麻布中学校　教員下見２名（日本旅行）
兼六園・金沢城公園　　３年生　１名　川端

１０月１５日（木）　９：１５～１０：３０　　神戸女学院中等部３年生　７０名
兼六園・金沢城公園　　３年生　１１名（１～３限公欠）

１０月１６日（金）　８：３０～　９：３０　　東京　麻布中学校　３年生　７６名
兼六園・金沢城公園　　２年生　１５名（金デパ準備一部公欠）

１１月　６日（金）　１２：００～１３：００　　大阪　小津中学校教員下見　２名
兼六園・金沢城公園　　２年生　１名（４限　観光実務Ⅰ公欠）竹村

１１月１３日（金）　１０：５０～１１：４０　　新潟　上越市立春日新田小学校　１３３名
兼六園　　１，２年生　２１名（２～４限公欠）

１１月２４日（火）　１３：００～１３：３０　　東京　桜町高校　教員下見　１名
兼六園　　２年生　１名　堀越

Ｈ２８

２月　５日（金）　１４：４０～１５：２０　　中核都市　東京事務所長下見　１２名
兼六園・金沢城公園　　２年生　２名（６限公欠）

３月　２日（水）　１４：２０～１５：００　　教育旅行アドバイザー５名
（日本旅行、ＪＴＢ、日本修学旅行協会　等）
兼六園・金沢城公園　　２年生　２名（５、６限公欠）

金商高生ガイド 好評

修学旅行の兼六園など 最多10校受け入れ

今年度

修学旅行生に兼六園を案内する金沢商高観光研究部の生徒＝昨年11月（同校提供）

金沢商高の生徒が県外からの修学旅行生に兼六園などを案内するボランティアガイドが好評だ。同世代ならではの分かりやすい説明と、生徒同士が交流しながら金沢の歴史、文化を学べるのが理由で、今年度は取り組み開始以来最多の10校を受け入れた。同校は新年度も積極的にガイドを引き受ける方針で、県と金沢市はさらなる修学旅行の誘致につなげる。

金沢商高生のボランティアガイドは2011年度から続いている。当初はソーリズムコースの生徒が体験学習の一環で取り組み、同コースが改編された13年度からは観光研究部が引き継いで実施している。

同部の生徒は金沢市のボランティアガイド「まいどさん」の指導を受け、自分たちで原稿や修学旅行生に配る学習シートを作成し、案内コースも練っている。県、市が活動を支援し、首都圏などの学校に売り込んできた。

これまでの対応実績は14年度の4校、393人が最多だったが、今年度は北陸新幹線金沢開業の話題性もあって依頼が増え、昨年5～11月に小学校1校、中学校9校を受け入れた。地域別では、東京が5校、大阪が2校、福井、兵庫、新潟が各1校で、案内した修学旅行生は計1千人を超えた。

案内を受けた学校からは「年齢が近い高校生の説明は分かりやすい」などと好評で、新年度の問い合わせも寄せられている。金沢商高では、生徒が達成感を得たり、職業意識を養うことにつながるとして、引き続きガイドを実施する。

県は「修学旅行の誘致に加え、将来の石川を支える観光人材の育成にもつながってほしい」（観光振興課）と期待している。

加賀フィールドワーク

1　目　的　外国人に石川の魅力を知ってもらうためのツアーを企画・実施することに先駆けて、自分達が知らない石川の魅力発見を行う。また、大学等との交流を通して観光分野における見識を広める。
また、昨年の能登フィールドワークと合わせて、高校生ガイドツアーのパンフレットを作成するための写真や資料集めを行う。

2　参加者　金沢商業高校６名　北陸学院大学短期大学部２名　国際ビジネス学院１名
引率教諭　４名（金沢商業２名、星稜大学１名、ビジネス学院１名）

3　行　程

９月１２日（土）
８：３０　金沢駅出発
９：１５　白山比咩神社
１０：３０　そば打ち体験（せせらぎの郷）
１３：００～　白山白川郷ホワイトロード（三方岩駐車場、ふくべの滝）
１６：５０　宿舎（春蘭の里）到着
１７：３０　夕食
１９：００　いしかわ動物園（ナイトズー）見学

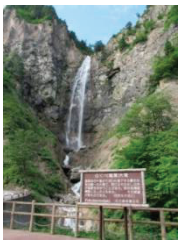
９月１３日（日）
７：３０　朝食
８：３０　法師社長より講話
９：１０　宿舎（法師）出発
９：２０　那谷寺
１０：３０　山中（鶴仙渓・あやとり橋・ゆげ街道）
１２：３０　昼食（川床にて　左らく弁当）
１４：１０　サイエンスヒルズこまつ
１６：３０　金沢駅到着

4　各観光地について

（1）白山比咩神社

（2）そば打ち体験（せせらぎの郷）

（3）ホワイトロード



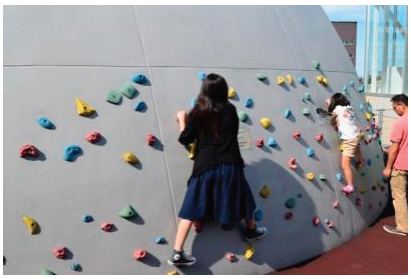
（4）いしかわ動物園

（5）粟津温泉「法師」

（6）那谷寺

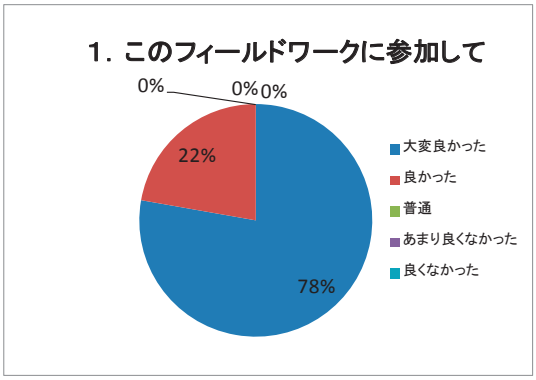
（7）山中　　こおろぎ橋～鶴仙渓～あやとり橋～ゆげ街道

（8）こまつサイエンスヒルズ



5　生徒アンケートより

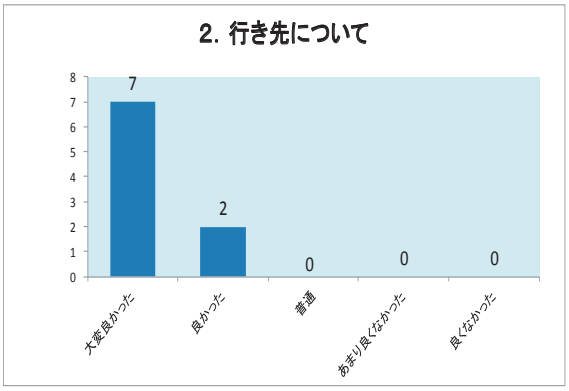
①このフィールドワークに参加して



【理由】

・他校生、多学年との交流	3
・普段は行けなかったところへの見学・体験	2
・行ったところが楽しかった	1
・初めて行ったところでも楽しめたから	1
・天気も良くて楽しかった	1
・加賀の方にはなかなか行く機会がないので勉強になった	1
・いろんな場所に行けたから	1
・行ったところのないところや知らなかったことがたくさんあったから	1

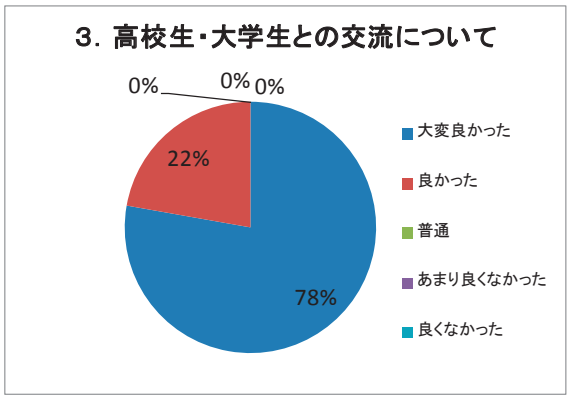
②行き先について



【良かった場所】

・ナイトズー	7
・ホワイトロード	4
・白山比咩神社	3
・そば打ち	2
・すべて	1

③高校生・大学生との交流について



【良かった点】

・人数がちょうどよかった	1
・多くの交流ができたから	2
・最初と比べて会話できた	1
・大学生と部屋が一緒	3
・全員と交流できた	1
・仲良くなれた	1

【改善点】

・当日までに交流をしたかった	1
・バスの中での交流	1
・部屋以外にもっと接点がほしい	1

④感想

・１つ１つの場所が想像以上に楽しくて驚きました。毎年行っていた神社も入り口が違うだけで景観が全く違ったので、もっと多くの人に知ってほしいと思いました。大学生と一緒に泊まると聞いたとき、緊張して話せないのではないかと不安でしたが、バスの中や部屋で多くの交流ができました。３年生とも話をたくさんできてうれしかったです。

私は粟津温泉に初めて泊まりました。とても楽しみにしていたので、最初の対応から驚きの連続でした。お抹茶と茶菓子が出てきたときが一番驚きでした。翌朝に「温泉に入った後は体を洗い流さなくてもいい」と聞いて昨日聞いておけばよかったと後悔しました。もし、他の人が止まるなら教えてあげたいです。

今日、このフィールドワークに参加し、初めての体験や交流などすべてが楽しかったです。普段行かないようなところにも連れて行ってもらいいい経験になりました。ありがとうございました。

・ほとんど行ったことがない場所で、石川県に住んでいても知らないことばかりだと思いました。新しいことや知らなかったことをたくさん学べてよかったです。私は神社やお寺には正直あまり興味がなかったのですが、今回それぞれの良さがわかっておもしろかったです。

粟津温泉「法師」では、歴史を聞いて開湯１３００年は改めて偉大さを感じました。温泉の入り方で、お湯に浸かった後に体は流さなくてよいと言っていたけど、流してしまったので後悔しています。大学生や先輩と同じ部屋だったので沢山話をしたり、聞いたりできて楽しかったです。

フィールドワークを通して、石川県だけでもまだまだ知らないことはあるのでいろいろな所に行ってみたいと思ったし、自分が興味ないと思っていたところも実はとても面白かったりするので奥が深いと思いました。

・想像していたよりもずっと楽しかったです。始めていくところが多くて、石川県内なのに違う県に行ったような感覚でした。そば打ち体験では、水の量や混ぜ方が難しかったですが、気持ちを込めながら作ったらおいしいそばができました。初めてそば湯を飲みました。優しくて落ち着く味で、たくさん飲みました。ホワイトロードを通るのが初めてで、山道を通るのは楽しくないだろうと思っていましたが、山谷滝がきれいで迫力もあって、とても楽しかったです。ジブリの世界に来たみたいでした。野生のサルにも会うことができました。とてもかわいかったです。ホワイトロードにまた行きたいと思いました。石川県の良いところを知ることができたので、皆に広めていきたいです。

・白山比咩神社では、入った瞬間に何とも言えないような感じになりました。気温も高かったので暖かいと思っていたけれどとても寒かったです。木がたくさんあった中で白山市指定天然記念物の木御神木（老杉）にさわりました。触った瞬間に木が冷たくだけどエネルギーをもらえた感じがしました。琵琶滝は全く水の音がなくとても静かなところでした。また、鳥居をくぐるときにお辞儀をするということを教えてもらい鳥居を見るたびにお辞儀をしていました。

そば打ちでは、初めてそばを粉から作りました。うどんは作ったことがあってそこまで難しくなかったのでそばも難しくないと思っていました。だけど、こねてはいけない。指で混ぜるといわれてとても焦りました。一番下手だったと思います。だけど、食べてみたらおいしかったのでよかったです。

白山白川郷ホワイトロードでは、白山比咩神社とは違った自然がいっぱいでした。車の中から見える景色がとてもきれいでした。マイナスイオンが感じられました。

いしかわ動物園（ナイトズー）では、家族で行ったことは何回かあったけれど友達と行くとまた違った感じで楽しかったです。

那谷寺では、雨が降っていました。金堂華王殿ではお参りをしました。大藪先生が那谷寺について歩きながら説明をしてくださり那谷寺についてさらに詳しく知ることができました。

山中　こおろぎ橋・あやとり橋・ゆげ街道では、雨が降っていたので川の勢いがとても速くてびっくりしました。あやとり橋が高く橋の上から川を見るととても景色が良くきれいでした。大藪先生が説明をしてくださりさらにこおろぎ橋がより印象に残りました。誰かが説明をしてくれ

るとさらに印象が残るのだと思いました。ゆげ街道では、大学生が案内してくださいました。街並みがとてもきれいでした。はじめに川床に行ったときは雨が降っていてお休みしていてご飯が食べられませんでした。しかし、ゆげ街道を歩き、みんなが集合しだしたときに川床が開くという朗報があり、川床で食べることができました。

サイエンスヒルズこまつでは、宇宙や科学について体験することができました。入ったときは学校で勉強したことがあるのばかりであまり面白くありませんでした。しかし、有料ゾーンに入ってみると子供だけでなく大人も一緒に楽しめました。３Ｄスタジオで動画を見たりしました。

粟津温泉では、女子全員で一つの部屋でした。初めは大学生とも初対面で２年生とはぜんぜん仲良くなかったので正直に言って嫌でした。部屋に入ると大学生のほうから話しかけてくれて、２年生も集まりみんなでお茶を飲みながら話しました。それから、気軽に話しかけることができ仲良くなることができました。２日間もあるのかと思っていましたが、今では２日間しかなかったのか、とおもえるほど楽しかったです。また機会があればみんなで行けるといいなと思っています。

・白山比咩神社は、初めて行ったのですが、入った瞬間から涼しくて、とてもエネルギーを感じました。神社の本殿までの道のりにある御神木は立派で、触ってみるととても冷たかったです。神社に入る時の礼儀など知らないことが多く、次また参拝する機会があればもっと神社のことや礼儀など細かいことを調べてから参拝したいと思いました。

そば打ち体験では、そばを打っている様子はよくテレビなどで見ていましたが、実際に自分が初めからやってみると、全然先生のようにはならなくてとても難しかったです。それでもそれなりに上手にできたし、おいしくなったのでよかったです。先生は最初の工程でもうそばが決まる、と言っていたのでそば作りは本当に深いなと思いました。

白山白川郷ホワイトロードは小学生の時に一度行ったことがあったのですが、高校生になってから改めて見ると、本当に絶景で、外に出た時の空気もとてもきれいでした。マイナスイオンを感じました。

いしかわ動物園のナイトズーは行ったことがなかったのでとても楽しみにしていたのですが、実際行ってみると本当に楽しかったです。

・今回、行った所はほとんど初めていくところばかりで様々な発見がありました。まず、最初の白山比咩神社は自然に囲まれていて景色を楽しんでいるうちにあっという間に神社につきました。参拝の仕方が書かれているものもあったので外国人でも正しい参拝ができるのではないかと思いました。お昼のそば打ち体験では、そば粉から作りました。普段何気なく食べているそばがこんなにも手間がかかっているものだとは知りませんでした。自分たちで作ったそばはとても美味しかったです。しかもグループごとにそばの味が違っていたので最初から最後までみんなで楽しむことができました。その後の白山白川郷ホワイトロードはとても自然が感じられる場所でした。空気も澄んでいて心が落ち着きました。景色も良くずっと眺めていられました。旅館に到着し食事をした後は、いしかわ動物園のナイトズーへ行きました。予想以上に人が多かったです。昼間と違って活発な動物もいればおとなしくなっている動物もいて、時間帯ごとにイベントもしていたので十分に楽しめました。主に大学生とまわりそこで距離が縮まったとのだと思います。ナイトズーが終わり、各自お風呂に入ってから学生で集まり会話をしました。思っていたよりも会話がはずみ、より親密になれました。粟津温泉では抹茶や和食といった日本ならではの文化を経験できたので外国人の方は興味を持ってくれるのではないかと思いました。那谷寺は、二年後に１３００年祭がある歴史ある寺で芭蕉の詩があるというのは知っていましたが、実際に見ることができてよかった。奇岩遊仙境が奇妙な形で印象に残った。しかし雨だったのが残念でした。晴れた日の那谷寺も見てみたいと強く思いました。鶴仙渓・あやとり橋・ゆげ街道は大藪先生に案内してもらいました。小雨が降っていて足元が悪く滑らないように気を付けて歩きました。予定では昼食は川床で食べるはずが雨の影響で使えないようになっていました。そして、あやとり橋まで行き、その後１２時まで自由時間でした。自由行動中からだんだん晴れてきて１２時になり、みんな集まりだした頃、突然川床が使えるという朗報が飛び込んできました。少し予定を遅らせることになりましたが無事川床で昼食を食べることができよかったです。雨上がりの景色はとて

もきれいで川床でご飯を食べるという貴重な体験ができて本当に良かったです。これは外国人の方にも喜んでいただけること間違いないと思いました。最後はサイエンスヒルズこまつに行きました。体験コーナーがたくさんあり３Ｄホールで立体映像を見たりしたのですべてを回ることはできませんでしたが､有料ゾーンはみんな楽しんでいたので行くなら有料ゾーンをお勧めします。

二日間という短い期間でしたが加賀の名所に行ってみて、僕のなかでは自然といえば能登というイメージだったのですが加賀も能登に劣らずとても自然が豊かで見どころが数多くありました。中でも一番よかったのは川床での食事です。あの体験はなかなかできるものではないのでぜひテマセクの生徒さんたちにも川床で食事をしてもらいたいです。また、初対面の大学生たち、あまり喋ったことのなかった二年生たちともたった二日間で急激に距離を縮めることができました。今回のフィールドワークはとても良かったです。参加させて頂きありがとうございました。

・最初は同い年がいないし、可愛い子ばかりで、私はこの子達の間に入っていけるのだろうかと不安に感じました。でも話の合う先輩や明るい子達が多くて２日間一言も言葉を発しないという残念なことが起きなくて良かったです。

今回の旅行で訪れた場所は、どこも初めて訪れた場所で有名なところばかりなので、自分の目で見られたのはとても勉強になりました。今回加賀のフィールドワークに参加して良かったです。

・みんな同じ部屋だったから学校・学年関係なく仲良くなれた。サイエンスヒルズこまつの有料ゾーンも楽しめた。法師の社長の講話がためになった。雨が降っているときの那谷寺と鶴仙渓はあまり楽しめないので雨の日のプランがあるとよい。

・少人数なこと、部屋が同室だったことなどで高校生との交流が持ちやすかった。バスでの移動のため、移動中の荷物が気にならなかったことがよかった。白山ホワイトロード等普段が行かないようなところまで行けたのは良かった｡生徒の自主性に任せる場面が多かったことがよかった。法師の社長の話しが役に立った。学年ごとにリーダーを設けた方が自由行動の時に行動をとりやすいのではないか。各場所の説明をしてくれたが、まとめたプリントなどがほしい。

6　おわりに

この２日間、時間は短かったものの各観光地で一人一人が外国人が観光で訪れた際に喜んでもらえる場所かを考えた。そのポイントとしては次のことが挙げられる。

①石川らしい自然や伝統文化の魅力があるかどうか。
②外国にはない観光資源かどうか。
③各観光地での時間の配分が適切かどうか。

①については、どこも魅力的な場所ばかりであったと思われる。
②については、ホワイトロードや温泉は大変魅力だと思われる。
③については、雨で十分に見学できない場所があったが、適切だったと思われる。

今回のフィールドワークでは、高大の交流を中心にし、交流の中でお互いに話し合って意見交換する時間を増やした。また、３月にシンガポールから生徒が来校した際のアンケート結果を配付し、結果をもとに考えながらフィールドワークを行うことができた。これをもとに１０月にシンガポールを訪問する際は石川の魅力を伝えてきたいと思った。今回限りの交流にならないように継続していきたい。

以上

「生徒による修学旅行誘致活動」

平成２７年３月１４日にセンセーショナルに北陸新幹線が開業した。東京－金沢の所要時間はかがやき号では２時間半弱に短縮され、今までは「ちょっと遠いかな…」と思っていた関東エリアがグッと近くなった。

今年度は北陸新幹線開業を契機に、専門的観光ガイドの実践力を高めることを目標におき、更に全国産業教育フェアで計画している「金沢周遊バスツアー」の企画と実践を行う活動を計画した。また、これまでの「生徒による修学旅行誘致活動」の結果、関東の中学校数校が修学旅行先に本県を選んでくれたこともあり、今年度も石川県観光戦略推進部及び金沢市営業戦略室の協力を得て「生徒による修学旅行誘致活動」も実施することとした。

本年度の事業については下記のとおりである。

１　名称

「高校生ガイド」～観光ガイドを充実させ、いしかわの魅力をＰＲ～

２　目標

・旅行商品を企画・実施し、企画力及び、専門的観光ガイドの実践力を育成する。
・石川の魅力（文化・自然）を再発見し、ふるさとを愛する心を養う。
・地域に貢献する態度を育み、おもてなしの心（ホスピタリティ）を育成する。
・大学等と連携し、観光分野の交流及び外国語の語学力を高める。

３　計画の概要

・旅行業者とタイアップし、高校生の視点で、旅行商品を企画・ＰＲする。
・高校生による観光ガイドツアーを行う。
・企画商品をＷｅｂにアップする。
・県観光戦略推進部首都圏戦略課とともに修学旅行誘致活動を行う。

４　実施について

・金沢ボランティアガイドまいどさんの指導による生徒のガイド練習を開始した。
・修学旅行生への兼六園ガイド等を実施した。
　東京立教池袋中学校（５月）、福井至民中学校（５月）、大阪小津中学校（５月）、大阪鯰江中学校（６月）、東京加賀中学校（７月）、東京聖ヶ丘中学校（７月）、東京川村学園中学校（８月）、神戸女学院中等部（１０月）、東京麻布中学校（１０月）、新潟春日新田小学校（１１月）
・東京都豊島区校長視察団へのガイドを実施した。（７月）
・旅行業者の指導を受けた旅行商品「金沢周遊バスツアー」を企画した。（７月）
・ＪＴＢ教育旅行担当者へのガイドを実施した。（７月）
・修学旅行誘致のため、旅行会社に対し、兼六園ガイドを実施した。（８月）
・企画商品「金沢周遊バスツアー」を有料で実施した。（１０月）
・石川県産業教育フェアでの「周遊バスツアー」を実施した。（１０月）
・関東方面の中学校・高校を回る修学旅行誘致活動を行った。（１２月）
・ガイドマップの作成（１月）

修学旅行ガイド

金沢周遊バスツアー

豊島区校長視察へのガイド

北陸新幹線金沢開業を活かして首都圏から修学旅行を誘致しようと、今年度も１２月に関東方面への中学校と高校へ修学旅行ＰＲ活動を行った。首都圏の中学校の修学旅行先は

京都、奈良が圧倒的に強いが、北陸新幹線の時短効果で、石川を経由するコースをアピールするとともに本校生徒による金沢の観光地ガイドも合わせてＰＲするにした。

１２月１７日（木）

・訪問先　豊島区立明豊中学校、豊島区立西池袋中学校、豊島区立千川中学校、豊島区立千登世橋中学校、豊島区立池袋中学校、豊島区立西巣鴨中学校、豊島区立巣鴨北中学校、豊島区立駒込中学校

明豊中学校では、来年度は北陸新幹線を利用して金沢を経由して、滋賀・京都も含めた修学旅行を行うということだった。本校の観光ガイドについても是非お願いしたいということだった。校長先生の案内により２年生の学年主任と修学旅行担当の先生及び生徒会長に挨拶をすることができた。皆さんそれぞれ楽しみにしているということなので、観光ガイドをしっかりできるように指導していきたい。

それ以外の中学校では、来年度の修学旅行は京都と奈良に行くということだったが、将来的に金沢を含めた北陸方面は検討の余地があるというような印象を受けた。ただし、金沢（北陸）を入れると奈良を省くことになるので、教科書に出てくる歴史的建造物を見せたいという思いもあるということだった。

１２月１８日（金）

下記の４校については、県観光戦略推進部首都圏戦略課首都圏誘致推進室が埼玉県と千葉県の中学校と高校に対して、金沢の観光に関するアンケート調査を実施した際に、金沢の情報をもう少し聞かせてほしいと回答してくれたので訪問することにした。

・訪問先　埼玉県立宮代高等学校

宮代高校では、来年度からの３年間は沖縄への修学旅行が決定しているということだった。今後金沢を含めた修学旅行を検討していただければ、金沢の観光地のガイドをさせていただきたいというお願いをした。

・訪問先　印西市立印西中学校、市川市立福栄中学校、市川市立高谷中学校

印西中学校では、東京に近い場所にあるということで、やはり修学旅行の行き先は京都と奈良方面だということだった。今後は金沢と京都ということも検討していきたいということだったが、北陸新幹線には修学旅行団体に対して特急券の半額制度がないという指摘もうけた。この辺は行政とＪＲとの問題なのでなんとか解決してほしいと思う。

福栄中学校と高谷中学校では、一年次に鎌倉を見学し二年次に京都を訪れるという歴史的観点で修学旅行を位置づけているため現段階では難しいと感じた。ただ修学旅行のプレゼンには保護者・教員・管理職全員で参加し検討しているため可能性もあると感じた。

今回の関東方面への中学校と高校への修学旅行誘致活動では、北陸新幹線を利用し金沢を経由して奈良・京都も含めた修学旅行を将来的に検討中という学校もいくつかあった。本校生徒による観光地やバスの中でのガイドは昨年度より向上したと思うが、さらに金沢の魅力を伝えるガイドができるように創意工夫し、この取り組みを今後も続けて、修学旅行の誘致活動をしていきたいと思う。

プレゼンの様子 ： 校長先生が前向きで熱心な方々で、生徒のプレゼンに興味関心を持ってくれた。

＜平成27年度　石川県立金沢商業高等学校　誘致活動行程表（12月17日～18日）＞

	日	目	時　間	最寄駅	訪問箇所口	対応者 役職	備考	訪問者 所属
A班	17（木）	1日目	11:30～12:45	北池袋	豊島区立　池袋中学校	校長	学校にて先生と一緒に給食を食べる	石川県 観光振興課
			13:15～14:15	大塚	豊島区立　西巣鴨中学校	校長		金沢市 東京事務所
			14:45～15:45	新庚申塚	豊島区立　巣鴨北中学校	校長		〃
			16:15～17:15	巣鴨	豊島区立　駒込中学校	校長		〃
	18（金）	2日目	10:30～11:10	新秋津 （or秋津）	東星学園中学校			〃
			14:00～14:40	白岡	埼玉県立蓮田松韻高校		JTB経由で アポイント予定	〃

	日	目	時　間	最寄駅	訪問箇所口	対応者 役職	備考	訪問者 所属
B班	17（木）	1日目	11:30～12:45	千川	豊島区立　明豊中学校	校長	学校にて先生と一緒に給食を食べる	石川県首都圏 誘客推進室
			13:15～14:15	椎名町	豊島区立　西池袋中学校	校長		〃
			14:45～15:45	要町	豊島区立　千川中学校	校長		〃
			16:15～17:15	雑司ヶ谷	豊島区立　千登世橋中学校	校長		〃
	18（金）	2日目	10:30～11:10	木下	印西市立　印西中学校	校長		〃
			14:00～14:40	姫宮	埼玉県立　宮代高校	教頭		〃

シンガポールテマセクポリテクニックとの交流

昨年１０月１７日（金)、谷本石川県知事もご臨席の中、本校１年生６名がシンガポールテマセク･ポリテクニック校で行った、石川の魅力を伝えるプレゼンテーションがきっかけとなり、平成２７年３月と９月の２回、テマセクポリテクニック校より生徒及び教職員が、石川観光を中心とした研修ツアーを実施し来日して下さった。どちらのツアーも非常に好評であり、特に９月の来訪の際には３００名を超える希望者を４０名に絞ったほどの人気であったのことであり、今後も年２回石川県を来訪するツアーを実施予定とのことである。

また、この訪問を受け本校からも１０月２９日（木）～１１月４日（水）に、生徒１５名、教員４名がテマセクポリテクニック校のＧＣＶ（グローカル・コネクト・ビレッジ）に滞在し、実際に講義を受講する等、シンガポール研修を実施した。

本校の地元、石川県においては平成２７年３月の北陸新幹線開業以来、国内外の観光客で賑わいを見せており、その経済効果は約１８２億円（北陸経済研究所試算）と言われているが、この活況を一時的なもので終わらせず、入り込み客の満足度を高め、リピーターとして確保していくことはもちろん、口コミ（紹介意向）による一層の観光客増を目指していかなくてはならない。そのためにも、様々な観光客に対応できるホスピタリティマインドと外国語でのコミュニケーションスキルを身につけた人材の育成が急務となっている。

また、東アジアや東南アジアでの経済発展やビザの緩和などの影響もあり、外国人観光客の中でも特にアジア系の観光客が目立っている。北陸新幹線開業前の平成２６年においても、外国人宿泊客数は平成２５年度比 121.3%の 293,956 人であり、兼六園の平成２６年度外国人の入園者数 229,080 人の内、アジアからの来客者数は 178,921 人で７８％を占めており、特に東南アジアからの来客者数は、平成２２年は 7,054 人であったものが２６年 18,526 人と５年間で 2.63 倍の伸びを見せている。加えて、県内企業の東南アジア進出や、アジア系資本の取り込みを目指す上でも、今まで以上にアジアに目を向けた取り組みが必要となっている。

このような状況の中、シンガポールテマセクポリテクニック校との定期的な交流は、生徒にとって他では得難い経験となっている。特にシンガポールは多民族国家であり、多くの文化・宗教が平和的に共存しており「ダイバーシティの尊重」が自然な形でなされていることや、教育が国家として重要視されていることがＴＰの生徒の様子からも伺われ、また国を挙げて観光に力を注いでおり治安も非常によい点、平成２６年に石川県シンガポール事務所が開設されたこと、２８年には北國銀行が進出予定であることなどを考えても、東南アジア諸国の中で最も交流、研修にふさわしい国家であると思われる。

OECD の DeSeCo プロジェクトは、人が生きる鍵となる力**「キーコンピテンシー」**を、**①異質な集団で交流する**（Ａ他者とうまく関わる　Ｂ協働する　Ｃ紛争を処理し、解決する）**②道具を相互作用的に活用する**（Ａ言語、シンボル、テクストを相互作用的に用いる　Ｂ知識や情報を相互作用的に用いる　Ｃ技術を相互作用的に用いる）　**③自律的に活動する**（Ａ大きな展望の中で活動する　Ｂ人生計画や個人的プロジェクトを設計し実行する　Ｃ自らの権利、利害、限界やニーズを表明する）の３つのカテゴリーにまとめているが、この交流を通し経験を積むことにより、どんな仕事にも移転可能な、このキーコンピテンシーが育成されることを期待する。

１　テマセクポリテクニック校（ＴＰ）の日本研修ツアー

◎１回目

①日　　程　　平成２７年３月２５日（水）～４月１日（水）

②参加人数　　生徒　４５名　教員３名　通訳１名

③行　　程

テマセックポリテクニック　石川ツアー**in March**

月日	行　程
1 **3/25** **(水)**	シンガポール 6:55 ✈✈ 成田空港 14:30　DL166 成田空港 ⇒⇒ 専用バスで東京駅 ⇒⇒ 東京駅 18:40 ⇒⇒ 21:54 金沢 ⇒⇒ ホテルエコノ金沢駅前
2 **3/26** **(木)**	ホテル 8:00 ⇒⇒ **8:30～11:30 金沢商業高校訪問** ⇒⇒ 11:45 ランチ ⇒⇒ 13:00～13:45 石川県庁訪問 ⇒⇒ 14:30～16:00 株式会社 PFU 見学 ⇒⇒ 16:30～18:00 東茶屋町 ⇒⇒ 18:15～19:45 ディナー ⇒⇒ ホテルエコノ金沢駅前
3 **3/27** **(金)**	ホテル 9:00 ⇒⇒ **金商生８名と合流 ⇒⇒ 兼六園+金沢城公園+21 世紀美術館+武家屋敷+妙立寺　　※詳細は別紙参照** ⇒⇒ ホテルエコノ金沢駅前 ⇒⇒ 金沢駅前散策
4 **3/28** **(土)**	ホテル 8:00 ⇒⇒ 9:00 千里浜ドライブロード通過 ⇒⇒ 10:45 輪島朝市⇒⇒ 輪島朝市で日本学生達と合流 ⇒⇒ 輪島朝市散策 & 自由ランチ ⇒⇒ 12:30 **出発** ⇒⇒ 13:00～14:00 白米の千枚田 観光後日本学生たちと別れる ⇒⇒ 15:00～16:30 春蘭の里山菜収穫体験 ⇒⇒ 18:00 能登島荘
5 **3/29** **(日)**	ホテル 8:00 ⇒⇒ 11:00～ そば作り体験 & 昼食 ⇒⇒ 14:00～ サイエンスヒルズ小松 （14:00～14:10 オリエンテーション / 14:15～14:45 日本アニメ鑑賞/ 14:45～15:55 ワンダーランド & 屋上自由見学 / 16:00～16:45 3D スタジオ上映 ）⇒⇒ 17:30～18:00 片山津温泉えんがわ公園足湯体験 ⇒⇒ 18:30～19:30 夕食⇒⇒ 小松コンフォートホテル
6 **3/30** **(月)**	ホテル ⇒⇒ 9:30～11:30 小松産業訪問 ⇒⇒ 12:30～ 加賀伝統工芸村ゆのくにの森で昼食⇒⇒ 13:30～ 金箔体験 ⇒⇒ 14:10～15:30 ゆのくにの森散策 ⇒⇒ 16:15～17:00 大倉岳高原雪上体験 ⇒⇒ 18:30～20:00 ディナー ⇒⇒ ホテルエコノ金沢駅
7 **3/31** **(火)**	ホテル ⇒⇒ 金沢駅 10:31 ⇒⇒ 13:28 東京駅 ⇒ 専用バス ⇒⇒ ニューオータニインホテル:
8 **4/1** **(水)**	ホテル 13：30 出発 ⇒⇒ 成田空港 成田空港 17:30 ✈✈ シンガポール 0:05　DL167

ツアーの内容については、担当ツアーガイドが石川県の観光施設等について不慣れだったこともあり、本校の竹川教諭が中心となりアドバイスを行い、行程等を練り直した。行程のほとんどを石川県で過ごすツアーであったが、アンケートの満足度も高く、石川の魅力を伝えることが出来たと思われる。

ここでは、２日目（３／２６）の本校訪問と、３日目（３/２７）の本校生徒による観光ガイドについて記したい。

○３月２６日（木）　テマセクポリテクニック校による金沢商業高校訪問、交流事業

８：００　　ホテル出発

８：３０　　本校正面玄関で出迎え

８：３５　　コミュニティコートへ移動　　本校吹奏楽部によるシンガポール国歌の歓迎吹奏

８：４０　　本校山本校長及びＴＰエリザベス先生の挨拶

８：５０　　両校生徒代表挨拶

９：００　　歓迎パフォーマンス及びＴＰ生徒によるダンス、歌の披露

本校：チアリーディング部による歓迎パフォーマンス

ＴＰ：歌やダンス、民族衣装の披露

９：２０　　校舎内見学・体験学習（３グループに分かれ実施）

①　校舎見学・部活動見学（ＥＳＳ部員が同行し案内及び通訳）

②　茶道体験

③　少林寺拳法体験

１０：５０　プレゼンテーション

①　ＴＰ：シンガポール及びテマセクポリテクニック校の紹介

②　本校：石川県の魅力の紹介（明日以降訪問する観光地を含む）

１１：１０　記念品交換　記念撮影

１１：３０　玄関で見送り

○３月２７日（金）　生徒による金沢観光地ガイド

グループごとの日程表

3月27日															
	9:30		10:30		11:30		12:30		13:30		14:30		15:30		16:30	
Aグループ	バス移動		金沢城 兼六園 21世紀美術館		昼食 (Fusion21)		12:30 国際交流 ラウンジ		13:30 バス移動		14:00 妙立寺		15:15 バス移動		武家屋敷	武家屋敷合流
	9:30		10:30		11:30		12:30		13:30		14:30		15:30		16:30	
Bグループ	バス移動		金沢城 兼六園 21世紀美術館		昼食 (Fusion21)		12:30 バス移動		武家屋敷		14:30 国際交流 ラウンジ		15:30 バス移動		16:00 妙立寺	武家屋敷合流
	9:30		10:30		11:30		12:30		13:30		14:30		15:30		16:30	
Cグループ	バス移動		金沢城 兼六園 21世紀美術館		11:30 国際交流 ラウンジ		昼食 (Fusion21)		街あるき		14:30 バス移動		15:00 妙立寺		16:15 バス移動	武家屋敷	武家屋敷合流
バスの動き		12：30市役所裏（Bグループ乗車）→12：40武家屋敷（Bグループ下車）→13：30国際交流ラウンジ（Aグループ乗車）														
		→13：50妙立寺（Aグループ下車）→14：30（Cグループ乗車）→14：45妙立寺（Cグループ下車、Aグループ乗車）														
		→15：20武家屋敷（Aグループ下車）→15：30国際交流ラウンジ（Bグループ乗車）→15：45武家屋敷（Bグループ下車）														
		→16：15妙立寺（Cグループ乗車）→16：30武家屋敷（Cグループ下車）→17：15妙立寺（Bグループ乗車）→17：20武家屋敷合流														

金沢城公園

２１世紀美術館前

妙立寺（忍者寺）

◎２回目

①日　　程　　平成２７年９月２５日（金）～１０月２日（金）

②参加人数　　生　徒　４０名　教員２名　通訳１名

③行　　程

テマセックポリテクニック　石川ツアー **in September**

月日	行　程
1 **9/25** **(金)**	シンガポール　✈✈ 関西空港 9:00　SQ618 関西空港　（専用バスで移動）⇒⇒ 12:30～13:30 サガミ西大津点 077-525-2013 ⇒⇒16:00　ANA クラウンプラザホテル金沢見学 ⇒⇒ 18:30 道とん堀金沢入り江店 ⇒⇒ ルートインホテル金沢
2 **9/26** **(土)**	ホテル 9:00 ⇒⇒ **9:15　金沢商業高校生徒 13 名と合流（兼六園入口）** **※2 つのグループに分けて　Ａ，Ｂ＆Ｃ** **Ａグループ　9:30～10:30 着物体験/10:45～11:45　兼六園、金沢城公園** **Ｂ＆Ｃグループ　9:30～10:30 兼六園、金沢城公園/10:45～11:45　着物体験** **※着物体験：石川県国際交流ラウンジ**　⇒⇒ 12:15～13:30　すし割烹小林 ⇒⇒ 14:00 妙立寺　⇒⇒ 15:30～17:00 21 世紀美術館　⇒⇒　すたみな太郎金沢店　⇒⇒ ルートインホテル金沢
3 **9/27** **(日)**	ホテル 9:00 ～10:00⇒⇒石川県観光物産館　和菓子作り体験 ⇒⇒10:30 から 2:00　東茶屋街散策　⇒⇒　1h 移動　⇒⇒岐阜県白川郷 13:00 昼食文助⇒⇒14:00～16:00　世界遺産白川郷荻町⇒⇒ 18:00　夕食 金沢国際ホテルバイキング⇒⇒　**金沢ホテルキャッスルイン**
4 **9/28** **(月)**	ホテル 9:00 ⇒⇒ 9:30～11:00 石川県庁訪問 ※県庁到着⇒802 号会議室⇒竹中教育次長挨拶⇒石川県観光紹介プレゼン ⇒県庁 19Ｆ見学（金沢展望）⇒11:30～12:30　**昼食** **⇒⇒12:45～15:30　金沢商業高校訪問　　※詳細は別紙参照** ⇒⇒ 16:00～17:00 やちや酒造見学　⇒⇒ 2h 移動⇒⇒能登島荘民宿　夕食
5 **9/29** **(火)**	民宿　⇒⇒ 9:00　やまびこ荘でそば打ち体験＆昼食 ⇒⇒ 13:00　加賀屋旅館見学　⇒⇒ 15:30　**能登島ファームししとう収穫体験＆ブルーベリー狩り＆バーベキューディナー⇒⇒　能登島荘民宿**
6 **9/30** **(水)**	民宿 7:45 ⇒⇒ 9:10　白米千枚田 ⇒⇒ 10:00～11:30 輪島朝市で輪島高校生と合流　※詳細は別紙　⇒⇒ 13:15～14:30　千里浜レストラン昼食 ⇒⇒ 19:00　京都和み館夕食　⇒⇒　グランドプリンスホテル京都駅八条口
7 **10/1** **(木)**	ホテル 9:00 ⇒⇒ 世界遺産……清水寺　⇒⇒　祇園散策 ⇒⇒ 12:00　祇園丸山かがり火　湯豆腐御膳　⇒⇒ 奈良公園散策 ⇒⇒ 大阪　⇒⇒　18:30　しゃぶ葉吹田佐井寺店　⇒⇒　アパホテル肥後橋
8 **10/2** **(金)**	ホテル 8：30 ⇒⇒ 9:00～20:00　ユニバーサルジャパン ⇒⇒関西空港 21:00 …… 23:30　SQ615　✈✈　シンガポール

日本語が堪能なエリザベス先生がハワイに転勤になったため、事前の打ち合わせに一部不安が残ったが、受入側としては今回で２度目となり、２５日の夜に引率のラビ・ナイアー先生、カレン･ポー先生と打ち合わせを兼ねて会食の席を設けたこともあり、２６日の生徒によるガイド、２８日の金沢商業高校での交流事業と両日とも順調であった。ただ、限られた時間の中で、いかに外国からのお客様をおもてなしし楽しんでいただくか、また本校の生徒にとっても、より有意義なグローバルな体験につなげていくか、などが今後の課題となろう。

○９月２６日（土）生徒による金沢観光ガイド

テマセクの生徒４０名を２０名ずつ２班に分け、前半、後半で①，②双方を体験。

① 兼六園、金沢城公園観光

② ②国際交流ラウンジでの着物体験

９：１５～１１：４５

兼六園入り口で合流。テマセク生徒に各３～４名の６グループ分かれてもらい、各グループに本校生徒２名が付き、兼六園、金沢城公園をガイドしながら、国際交流ラウンジまで案内。先に着物体験を済ませた班を同様に案内しながら逆コースで兼六園、金沢城公園をガイド。

○９月２８日（月）テマセクポリテクニック校による金沢商業高校訪問、交流事業

（午前中石川県庁訪問、昼食後本校へ向かう）

※午前中４５分授業でセレモニーの時間を確保

１２：４０　本校正面玄関で出迎え

１２：４５　コミュニティコートへ移動

本校吹奏楽部によるシンガポール国歌の歓迎吹奏

１２：５０　本校山本校長及びＴＰラビ・ナイアー先生の挨拶

１２：５５　両校生徒代表挨拶

１３：００　チアリーディング部歓迎パフォーマンス及び少林寺拳法部演武

１３：１５　テマセクポリテクニック校　ダンス及び歌の披露

１３：２５　本校１年生による学校紹介プレゼンテーション（視聴覚室）

１３：５５　交流会　竹川教諭の指導で石川の伝統文化体験（観光）

本校生徒とＴＰ生徒がペアになり、水引細工によるストラップ作り体験。

１４：２５　授業体験・異文化体験（２グループに分かれ、前半後半で交代）

①　茶道体験

②　英語（久田教諭及びＡＬＴ）の授業

（質問シートを埋めながら、できるだけ多くの生徒と互いに自己紹介を行う）

水引ストラップ製作

英語の授業での交流

１５：３０　記念品交換。記念写真撮影

１５：４０　玄関で見送り

○所感

ＴＰの生徒の中には、日本語を学んでいる生徒もおりシンガポールにおける日本への興味関心の高さが伺えた。また、異なる文化宗教を持つ人々との交流は、本校生徒にとって「自己を相対化する視野」の獲得につながるものと期待している。

英語が苦手な生徒も、何とかコミュニケーションを図ろうと苦心する中で、英語によるコミュニケーション能力というリテラシーの養成に加えて、人間力を高めグローバルなホスピタリティマインドに基づいておもてなしができるというコンピテンシーの醸成にもつながったと思われる。

平成２７年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」
シンガポール研修について

１　目　的　　石川の魅力や伝統産業を英語でプレゼンテーションを行うことや、現地での交流を行うことで、実務的な英会話力を向上させる。また、シンガポールの観光資源を現地で体感しながら、日本人向けの旅行商品を企画し、商品化を目指す。

２　参加者　　生徒　１５名　（　１年生　７名　　２年生　８名　）
　　教員　　４名

３　研修期間　平成２７年１０月２９日（木）～１１月４日（水）　　６泊７日

４　行　程

【１０月２９日（木）　第１日目　】

６：００　金沢駅
７：５０　小松空港出発
８：５０　羽田空港到着
１０：５０　羽田空港出発
１７：３０　チャンギ空港到着
１８：３０　夕食
１９：３０　リバークルーズ
２１：００　ホテル宿泊

【１０月３０日（金）　第２日目　】

９：００　テマセクポリテクニック到着
　　交流セレモニー（キャシー・ヘン先生・学生）

前田副校長挨拶

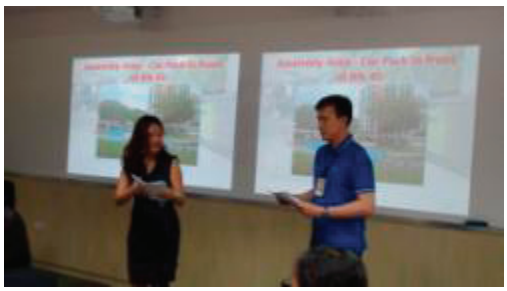
生徒自己紹介

　　校舎見学（３班に分かれ、テマセク学生１５名が案内）
　　授業（シンガポールの民族文化　モハメッド先生）

シンガポールの民族文化　モハメッド先生

TP の先生とのランチミーティング

GCV の説明



ショートジャーニー（バスでの移動）

校舎見学

ショートジャーニー

ＧＣＶ宿舎説明・チェックイン
昼食会（学生と一緒）

１３：００　ショートジャーニー
（テマセク学生１７名による案内）・チャイナタウン、インド人街、アラブ人街

１７：００　石川県シンガポール事務所訪問
地下鉄乗車体験（ｅｚ－ＬＩＮＫ）

２０：２０　ＧＣＶで宿泊

石川県シンガポール事務所

成田氏からの説明

ez-link を使った地下鉄乗車

TP 学生との交流

【１０月３１日（土）　第３日目　】

９：００　市内散策（テマセク学生１５名と３班構成）
シンガポールの観光資源を現地で体感し、日本人の若者向けの旅行商品を企画する
・タンピネス駅周辺、スタジアム駅、ブギス駅等

・タンピネスで三重県産業教育フェアと中継をつなぐ

２１：１５　　ＧＣＶで宿泊

タンピネス駅

案内の学生との交流

TP 学生との打合せ（竹川教諭）

TP 学生どうしの打合せ

若者の街ブギス

公共交通機関での移動

【１１月　１日（日）　第４日目　】

９：００　　シンガポール市内観光（休日のため本校生徒のみ）

２０：００　　ＧＣＶで宿泊

ガーデンズバイザベイ

フードコートでの買い物

USS

【１１月　２日（月）　第５日目　】

９：００　　授業（レジャー&イベント・マネジメント　　マイケル・ヨウ先生）

・ジャンプ写真、ツボ押し、アニマルタオル制作

・金沢商業との中継①（商品開発）

生徒による学校紹介（本校の紹介、観光の授業、石川県の観光　　１年生７名）
テストマーケティング（はちみつ２種、あぶらとり紙、金箔入り飴）
・金沢商業との中継②（商品開発）
学校紹介等（テマセク来校及び交流の紹介　　南主幹教諭）

１７：００　　市内散策（リトル・インディア）

歓迎の案内 	LEM の学生との記念写真
本校生のプレゼンテーション 	金沢商業授業（商品開発）との中継①
レジャー&イベント・マネジメントの授業 	金沢商業での画像
南主幹教諭の説明 	テストマーケティングの様子

【１１月　３日（火）　第６日目　】

９：００　　朝食（トーストボックス　　アンジェリン・チン先生）
授業（ホスピタリティ&ツーリズム・マネジメント　アンジェリン・チン先生）
立食昼食会

１２：２０　　ワークショップ（「村上春樹の分析」　講師：ロナルド・ケルツ（作家・編集者）、テッド・グーセン（翻訳家））

１３：５０　　日本のお菓子の紹介（一緒に料理・試食　　ようかん、白玉団子（きなこ・あんこ）、緑茶、味噌汁、しょうが湯）
シンガポールの遊び、日本の遊びで交流（テマセク学生　１５名）

１６：３０　　お別れセレモニー
・前田副校長、生徒代表挨拶

１７：００　　テマセク出発

２２：００　　チャンギ空港出発

ホスピタリティ＆ツーリズムの授業 	ホスピタリティ＆ツーリズムの授業
アンジェリン・チン先生 	ワークショップの案内
日本大使館主催のワークショップ 	村上春樹の分析
日本のお菓子の紹介 	日本の遊び

日本のお菓子の試食会 	シンガポールの遊び
お別れのセレモニー 	前田副校長と生徒代表の挨拶
記念写真（SG50） 	お別れ

【１１月　４日（水）　第７日目　】

５：３５　　羽田空港到着

８：４５　　小松空港到着、解散式

９：５０　　金沢駅到着

ＰＲＯＧ基礎力測定テスト

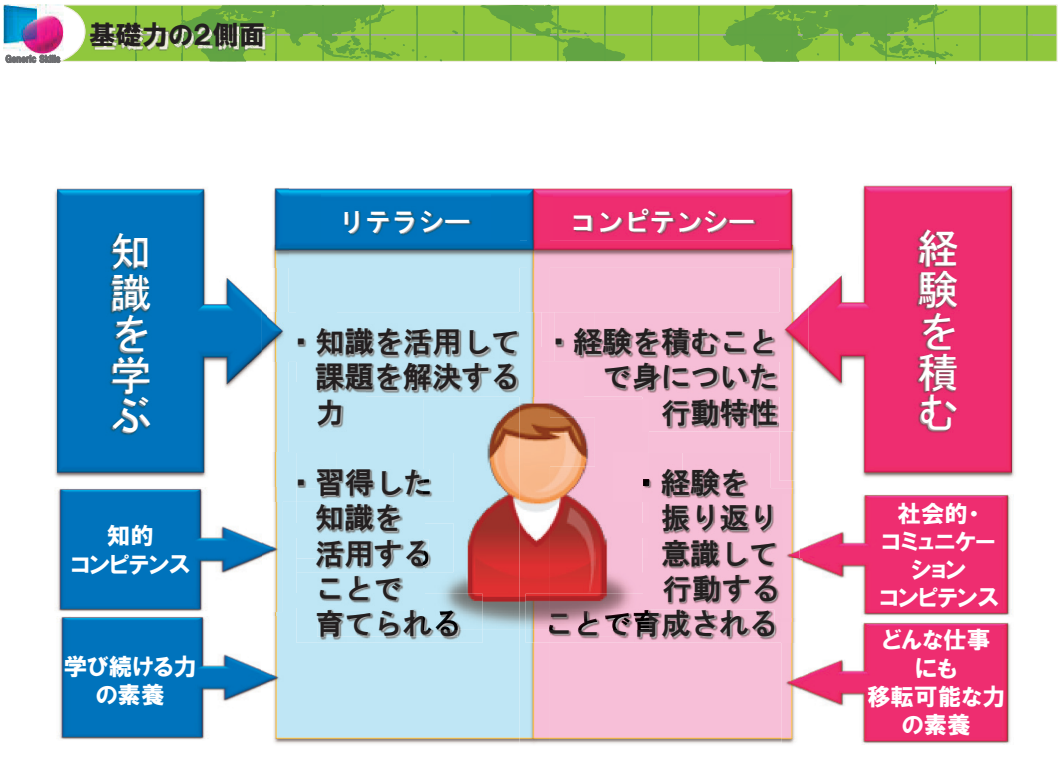
平成２７年１２月１１日（金)、本校で観光の講座を選択している２年生２３名、３年生１１名を対象に、ＰＲＯＧ基礎力測定テストを実施した。

○ＰＲＯＧ基礎力測定テストとは

ＰＲＯＧ（Progress Report On Generic skills）とは、専攻・専門に関わらず、社会で求められる汎用的な能力・態度・志向―ジェネリックスキルを「リテラシー」「コンピテンシー」の二側面から、評価・測定するテスト。

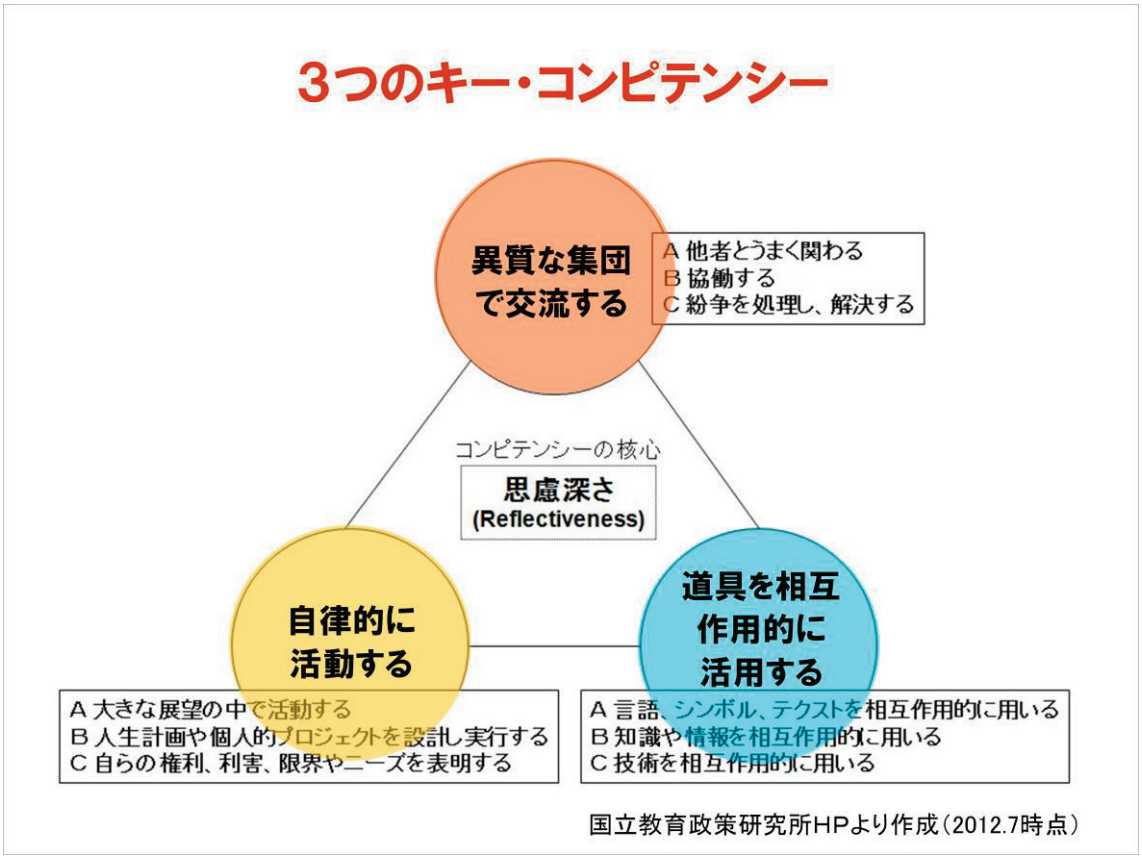
リテラシー…知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養を見るもの

コンピテンシー…経験から身についた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養を見るもの。



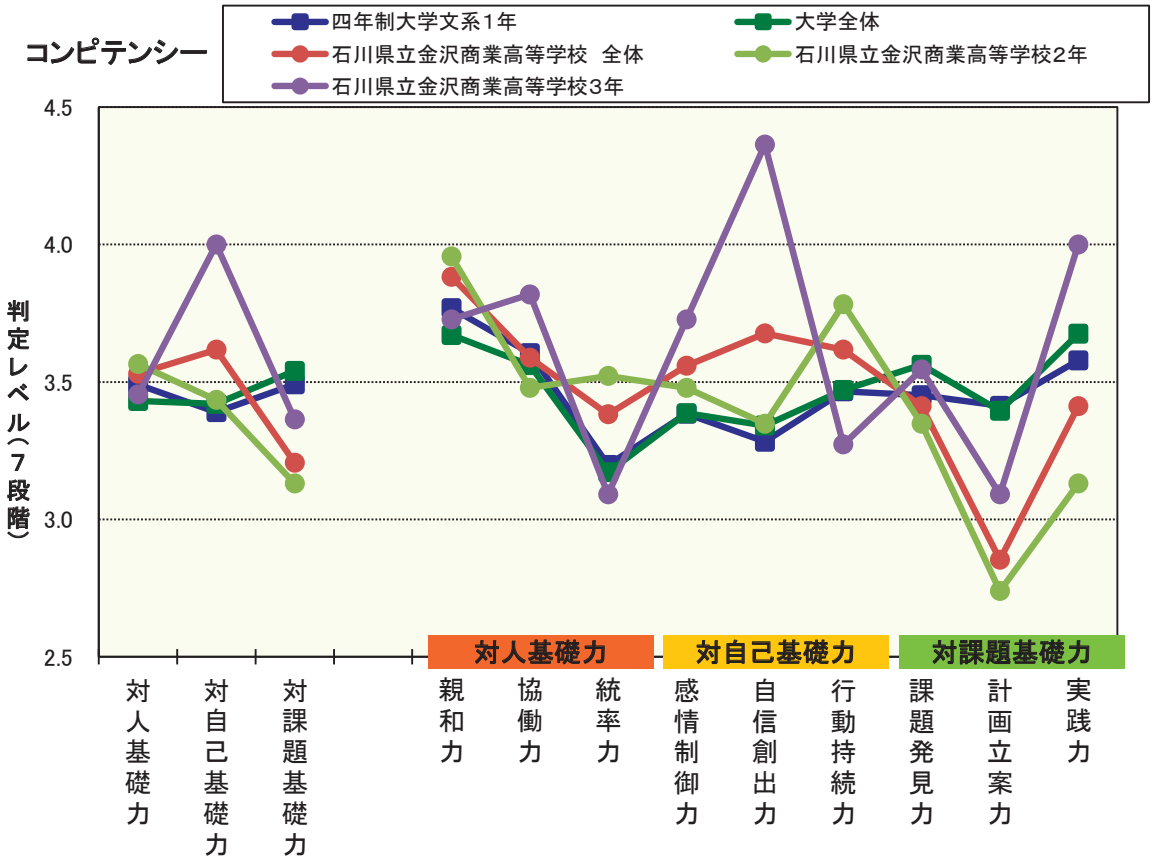
（図、グラフは株式会社ＫＥＩアドバンス全体傾向報告書より引用）

今回は、この２つの基礎力の中でも、OECD の DeSeCo プロジェクトが、人が生きる鍵となる力、**キーコンピテンシー**としてまとめた、「①異質な集団で交流する　②道具を相互作用的に活用する　③自律的に活動する」の３つのカテゴリーに注目し、本校生徒の行動特性を分析した上で、事業を通し如何にキーコンピテンシーを育成するかを考えていきたい。



○本校生徒のコンピテンシー分析

結果を分析するにあたり大学生全体及び四年生大学文系１年生平均との比較を依頼した。

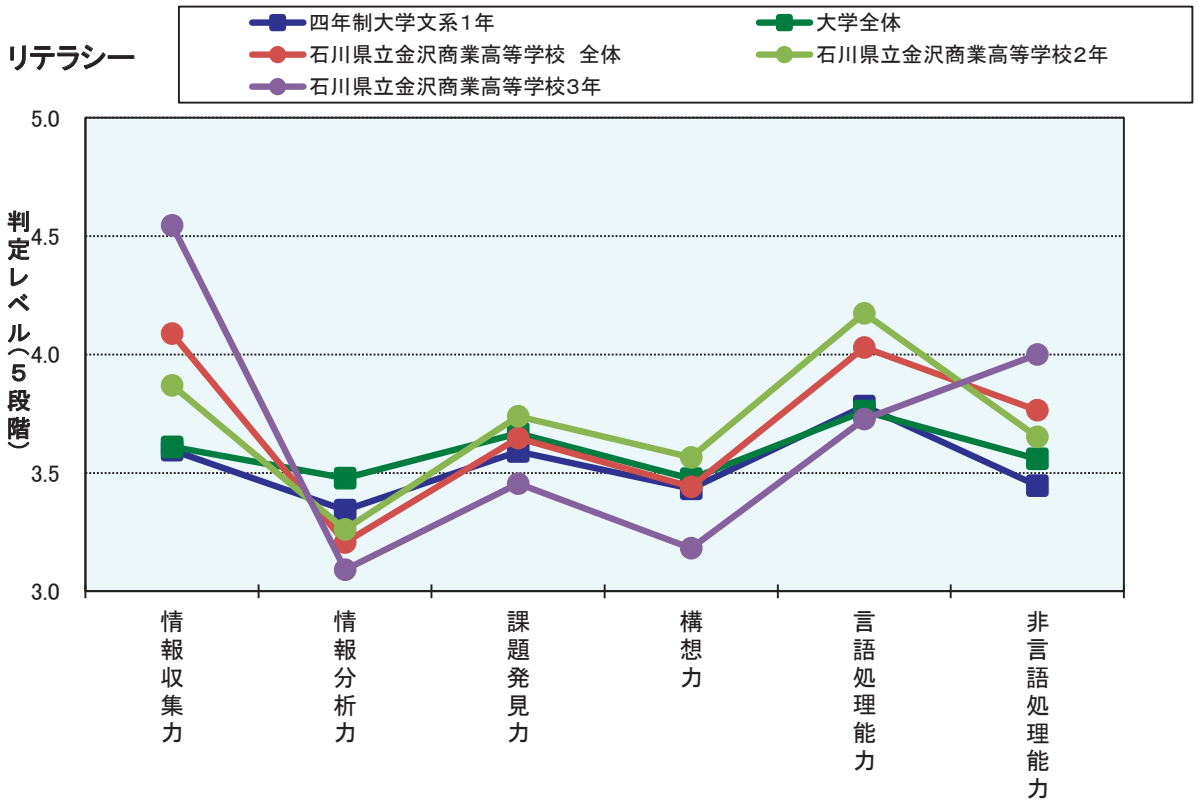


受験者数が少数であるため、あくまで参考ではあるが、全体としては２年、３年ともに４年生大学文系１年の平均値を上回っている。２年においては、親和力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力が大学生平均を上回り、協働力、課題発見力、計画立案力、実践力が下回る傾向にある。また３年においては協働力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、実践力が大学生平均を上回り、親和力、統率力、行動持続力、計画立案力が下回る傾向にある。

この中で注目したい点は、３年の自信創出力、実践力が大学生平均のみならず、本校２年生をも大きく引き離して上回っている点である。これは、本事業の中で実施してきた「兼六園等における修学旅行生のガイド活動」や「能登、加賀におけるフィールドワーク」「国内バスツアーの企画実施」等、実践活動を重視した取り組みを数多く行ってきたことと、「総合旅行業務管理者」や「国内旅行業務管理者」検定を受検し、多くの生徒が資格を取得してきたことの成果と考えられ、今後もこの取り組みを継続・発展させていきたいと考えている。

反面、２，３年ともに計画立案力は低い評価となっている。これは観光の授業や取り組みを行う中で、知識や経験不足から教師や旅行業者の助けを借りなければならない場面が多くあり、真に主体的な活動とはなりきっていないことの表れであろう。今後、今まで以上にアクティブラーニング型の授業や体験型学習を多く取り入れる中で、より主体的に目標設定を行い、計画を立案、評価する力を育てていきたい。

○本校生徒のリテラシー分析



２年生においては、情報収集力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力が、四年生大学文系１年平均値よりも高く、情報分析力は低い傾向にある。また３年においては情報収集力、非言語処理能力が平均よりも高く、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力が低い傾向にある。

リテラシーにおいては、３年生よりも、２年生の方が評価が高い項目が多いという意外な結果になった。これは、１２月という試験を行った時期の問題もあろうが、３年の情報分析力、課題発見力、構想力の値が低かったことは、真摯に受け止める必要があろう。特に、２，３年ともに情報分析力が低いことは、インターネットやスマートホンによる簡便な情報収集に慣れ、データやグラフ、文献・資料等を自分なりに読み取り、クリティカルに考える習慣がないことが一因と思われ、今後の学習活動の反省材料としたい。

『金商イングリッシュビレッジ』

英語で聞いたり話したりする活動を通して、生徒に英語をより身近に感じてもらいたいと考え今年度より『金商イングリッシュビレッジ（英語村)』を実施した。

１事業目的

異なる習慣や文化を持つ人々と英語を話すことを通じてその文化に触れる。また日本の習慣や文化を発信し、互いに理解を深める。

２事業概要

本校 ALT や外国語を教える講師、留学生とともに英語に興味を持つ本校生徒が、様々なアクティビティーを通して英語で活動する。

３実施内容

（１） 対象者

・英語に興味のある本校生徒（希望者）及び留学生

・本校に勤務する ALT、外国人講師、教員（教科は問わない）

（２） 実施日

・6 月 18 日(木)、7 月 15 日(水)、9 月 17 日(木)、12 月 18 日(金)

（３） 時間

15：45～17：00 頃

（４）会場

本校教室、学習室、調理室

具体的な内容は次の通りである。

第１回　　6 月 18 日　・・自己紹介

質問事項が書かれたビンゴカードを配付し、参加者がそれぞれ質問と回答をし合いながら質問した生徒の名前でカードを埋めていく。最後にビンゴゲームを行った。

留学生と質問をしあう参加者

学年の枠を越えて質問しあう

今回は初回であり、参加生徒が 1 年～3 年と幅広かったため「お互いのことを知る」という趣旨で自己紹介を行った。最初に「間違うことを恐れないでほしい。間違うことは新しい事が覚えられるチャンスである。」と話し、質問の仕方や答え方を ALT と一緒に十分練習した後に活動したため、スムーズに進めることができたと思う。

第２回　　７月 15 日　・・短期留学生とともに外国の学校生活を知る

アメリカ、オーストラリアの留学生と本校 ALT（アイルランド）、中国語講師を迎え、それぞれの国における高校生活を中心にお互いの国の様子を聞き合い学び合うという活動を行った。それぞれの国の代表者がパワーポイントで全体に説明し、その後グループに分かれてそれぞれの国の生活について質問し合った。最後に話された内容をクイズ形式にして振り返った。

短期留学生達がアメリカの高校生活について話す

日本の食文化について話すＥＳＳからの参加者

短期留学生（2 名）長期留学生（1 名）中国人講師（1 名）本講 ALT（1 名）によるそれぞれの国の高校生活の説明は、参加者達が知らない事も多く、ためになったと思われる。また日本の文化を知って貰うためにＥＳＳが日本についてプレゼンを行った。

グループ毎の話し合いの時には日本の生徒は「日本では校則で化粧は禁止になっている」など外国との比較もでき、より理解が深まったと感じている。

第３回　　９月１７日　・・新長期留学生に日本の事を知って貰う

９月より登校しているアメリカからの長期留学生（1 名）の紹介と、彼女に日本や本校の生活について知ってもらうという趣旨で活動した。留学生の自己紹介のあと、それをクイズ形式にして振り返り、その後２～3 名のグループに分かれ、今度はそれぞれのグループに「覚えておいたら良い日本語とその意味」「知っていて損はない金沢弁とその意味」「学校で職員室に入る時に言わなければいけないこと」「学校付近の店で買うべき物」「購買で売っている物」というようなお題が与えられ、それぞれ英語で説明した。

長期留学生に日本での生活について話す参加者

それぞれの発表をしっかり聞く参加者

これまでは英語で短い応答を行っていたが今回は英語で説明するという活動を行った。そのため少し時間を与え、ALT や日本人英語教員の助けを借りながら生徒達は自分達の課題に取り組み、様々なお題に対する回答をプレゼンした。与えられたお題に対する回答だけでなく理由や例を言葉だけでなくジェスチャー等も交えて伝える参加者もおり、何かを伝える事には何が必要なのかを少しではあるが理解できたと思う。

第４回　　12 月 16 日　・・クリスマス企画「ジンジャーブレット作り」

今回はクリスマスを祝う外国でこの時期に食べられる「ジンジャーブレット」を参加者全員で作るという活動を行った。

長期留学生とともに調理する参加者

焼き上がりを確かめる参加者

ALT から英語のレシピをもらい、英語での説明の後グループに分かれて調理を始めた。留学生も ALT もグループに入り、調理と袋詰めまで楽しみながら行った。

全商英検が近い 2 学期最終週に行ったことで参加者はこれまでの半分ほどであったがアットホームな雰囲気の中、時間があっという間に過ぎたようだった。

４生徒の変容について

この事業を通して留学生と参加生徒が交流でき、普段廊下や教室で楽しそうに話している場面を見る機会が増えた。また ALT にも気軽に声をかけており、英語を話すことに対する構えが少なくなっているように感じた。そのためシンガポールの生徒交流に対しても生徒達は積極的に話そうとしているような手応えを感じている。また直接効果があったかどうかは分からないが、全商英語検定の 2 級合格者の数がずいぶん増えている。

５最後に

今年度この事業は、検定試験や学校行事との兼ね合いで 4 回しか行うことができなかったが、文化部の生徒中心にそれぞれ 1 年生から 3 年生までの約 40 名（第 4 回のみ約 20 名であった）が集まる機会となったことは、生徒達の中に「英語を話したい」という気持ちが少なからずあるのではないかと考えている。「話すこと」は少しハードルが高いかと思ったが、計画する時点で話す必然性を作るように工夫したことと、当日の ALT、留学生、そして英語科の教員のお陰で参加者達はこれまでより少し自信を持って話すことができたようである。この事業がきっかけとなり、普段の授業でも臆せず話せるリーダーのような立場を取ってくれることと、自分の周りの事などを話す機会を普段の授業においても増やすことによってこのイングリッシュビレッジが更に活気づくよう願っている。

またもう少し回数を増やすことと、本校留学生、ALT を含む職員だけでなく、校外の在住外国人の方々との交流なども含めた活動をすることが来年度への課題である。

ＢＡＴＩＣ（国際会計検定）への取り組みについて

１　目　　的

学校設定科目「国際会計」における国際会計検定の内容・有用性について検討する。

２　試験内容・称号

（１）Ｓｕｂｊｅｃｔ１　　「英文簿記」　制限時間１時間３０分
　　４００点　　①選択問題　（各　８点×３０問）
　　②記述問題　（各２０点×　８問）

（２）Ｓｕｂｊｅｃｔ２「国際会計理論」　制限時間２時間３０分
　　６００点　　①選択問題　（各　７点×６０問）
　　②記述問題　（各４５点×　４問）

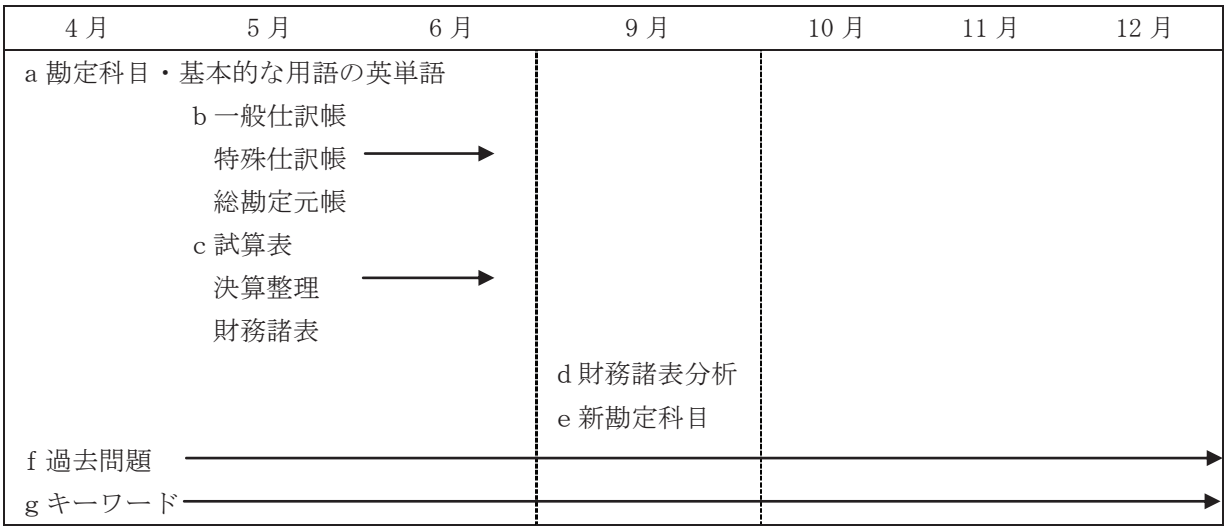
（３）称　号
　２００点以上　・・・　ブックキーパーレベル
　３２０点以上　・・・　アカウンタントレベル
　７００点以上　・・・　アカウンティングマネジャーレベル
　８８０点以上　・・・　コントローラーレベル
※　Ｓｕｂｊｅｃｔ１でアカウンタントレベルに達した場合、Ｓｕｂｊｅｃｔ２の受験資格が与えられる。

３　受験日時・会場・人数

平成２７年１２月１３日（日）　金沢商工会議所　３年生２５名
　　１０：００～１１：３０　Ｓｕｂｊｅｃｔ１

４　受験までの学習（課題研究２単位）

①ＢＡＴＩＣ（国際会計検定）Ｓｕｂｊｅｃｔ１受験に向けての学習項目・スケジュール



②項目ごとの学習内容

ａ．勘定科目・基本的な用語の英単語

・自作の単語カルタの使用

昨年の生徒の感想からも、単語カルタは英単語を覚えるには有効な方法であると考え、今年度も同様に利用した。カルタの利用期間を短くし、過去問題で確認した。（ｆ）

ｂ．一般仕訳帳・特殊仕訳帳・総勘定元帳

・自作プリントを使用

仕訳帳の種類（５種類）と記帳方法、総勘定元帳、補助元帳の記帳方法についてポイントを確認しながら学習した。また、過去問題で問題演習を行った（f)。

①仕入仕訳帳・売上仕訳帳を使用する取引と入金仕訳帳・出金仕訳帳を使用する取引について

②個別転記、合計転記について

ｃ．試算表・決算整理・財務諸表

・自作プリントを使用

試算表、決算整理、財務諸表の意味や形式については、昨年度と同様に１・２年次に学習済みであるため、英単語と計算方法についての学習を過去問題を用いて行った（ｆ・ｇ)。

①費用・収益の見越し・繰り延べの処理について支払時に全額資産・負債に計上する方法について

②再振替仕訳について

③固定資産の減価償却高の計算方法について（定額法・２倍定率法・級数法）

④棚卸資産と売上原価の会計処理について、棚卸計算法と継続記録法による記帳方法の相違について

ｄ．財務務諸表分析

・自作プリントを使用

項目ｃと同様に、財務分析の意味と大半の財務比率については２年次に「財務会計Ⅰ」で学習済であるため、すでに学習した財務比率の復習と新たな財務比率に関する英単語、財務比率の意味・計算方法について学習した（ｆ・ｇ)。

①ＲＯＥ

②ＲＯＡ

ｅ．新勘定科目の確認

第２９回検定（平成２７年７月実施）より出題内容や用語、勘定科目の一部に変更があったため、夏休み明けの授業で変更点について過去問題集の新旧対応表と第２９回検定問題で確認した（ｆ)。

※Ｓｕｂｊｅｃｔ２では大幅な改訂となったが、勘定科目の変更はＳｕｂｊｅｃｔ１では５つの変更点であった。

ｆ．過去問題

・過去問題集を使用

ＢＡＴＩＣ国際会計検定　過去問題集　2015-2016 年度

Ｓｕｂｊｅｃｔ１　　ＴＡＣ出版

今年度は昨年度の反省から、問題演習の時間を確保するために英単語の確認の段階から過去問題集を用いた。覚えた英単語の数の差が解ける問題の差として表れ、生徒には自信や刺激にもなったようだった。

ｇ．キーワード

年間を通して、キーワードを確実に理解することに時間を費やした。生徒に、問題文中のどの単語が解法上のキーワードになるかを発問した。

⇒　生徒は、問題文中の解法上重要な単語に注目し、全文を和訳する必要がないことがわかり、１題あたりにかかる時間が短縮できるようになった。

５　結　　果

・アカウンタントレベル　・・・　　３名
・ブックキーパーレベル　・・・　１７名
・称号なし　　・・・　　５名

（ 金沢商工会議所にて ）

６　成果と課題

【課　題】

○　年間を通して過去問題を用い、問題演習の時間は昨年より確保したが、アカウンタントレベル認定は３名となり、昨年度と同数であった。また、ブックキーパーレベル認定のうち３名が３１９点というスコアとなり、あと１点でアカウンタントレベル認定でスコアが伸び切らなかったことも残念であった。

【成　果】

○　レベル認定の目安は、生徒たちの簿記と英語に関する検定資格の取得状況と検定試験のスコアから、英語は全商３級、簿記は全商１級であることが分かった。

○　アカウンタントレベル認定については、英語力がカギとなると考えていたが、キーワードを理解し、効率よく問題文を読むことで英文には対応でき、簿記の理解度がカギとなることが分かった。

※昨年度今年度とも、最高得点の生徒が取得している検定資格は英語に関しては全商３級、簿記に関しては日商２級であった。

○　国際会計検定は、生徒たちにとって得意科目である「簿記」を通して英語を学ぶ機会となり、英語への抵抗をなくし、自信や達成感を得られる有効な教材であると考える。

○　「英語＝海外」と考える生徒が多く、英語への抵抗がなくなった結果、海外への関心が高まるという点も昨年度今年度で共通した生徒の反応であった。国際会計検定は、英語の学習や海外に関心を持つことへの導入には有用であると考える。

国際会計基準の研究

目　的
　財務会計の学習を通して、国際会計に必要な会計能力についての基礎的・応用的な知識や技能を身に付ける。

１．「財務会計Ⅱ」における学習
①総論（財務会計の基本概念と会計基準）
　財務会計の基本概念、資産負債アプローチと収益費用アプローチ、会計基準の国際的統合
②企業結合の会計
　企業結合会計、連結財務諸表の作成
③企業活動の展開と財務会計
　外貨換算会計、キャッシュフロー計算書
④財務会計の実際
　資産会計、負債会計、純資産会計、リース会計、税効果会計
⑤財務諸表の活用
⑥監査と職業会計人
⑦財務会計のまとめ

２．外部講師による特別講座
日　時：平成２７年　９月１９日（土）１０：００～１６：００
　　平成２７年１０月２１日（水）１０：００～１６：００
講　師：京都ＩＴ会計法律専門学校　名雪英之　氏
内　容：国際会計分野における特別講座
　①外貨建て会計
　②本支店の会計（在外支店財務諸表の換算）
　③企業結合の会計（在外子会社財務諸表項目の換算）
　④その他
参加者：本校３年生　「財務会計Ⅱ」選択履修者２６名

３．成果と課題
　財務会計Ⅱの授業では、主に国内の財務会計に関する知識と技術を習得することにより、会計責任を果たすことの重要性や会計情報の活用の仕方について学ぶことができる。今回この事業において国際会計基準の研究を行うことにより、教科書にでていない部分の学習も含めて行うことができ、よりグローバルな視点で財務会計の学習ができたと考えられる。

〔外部講師による講座〕

　課題としては、今後国際会計分野の研究を深化させるためには、教員自らの研究と自作テキストの充実が不可欠となる。また、課題研究など他の科目との連携も考えていかなければならいと考えられる。

タブレット端末導入を見据えたＷｅｂテレビ会議
～ＩＣＴを活用したグローバル人材育成～

現在、情報通信技術の発達が社会生活に大きな変化をもたらし、教育現場にも「ＩＣＴ機器の活用」や「課題を発見し、自ら学ぶ」など、時代に応じた変化が求められている。これらの背景から、学校における教育の情報化が進み、現在導入されているＩＣＴ機器はタブレット端末へと移行している。今後のさらなるグローバル社会化を見据え、すべてがインターネットにつながる「ＩｏＥ」社会に対応できる人材育成は急務である。テマセクポリテクニック校（以下ＴＰ）との交流から「生徒によるタブレット端末を利用した、国際交流における教育効果と今後の可能性」について考察する。

（金沢商業高校　大会議室）

～はじめに～

○テレビ会議からＷｅｂ会議へ

直接接する機会が困難である海外との交流は、機器を媒介としたコミュニケーションが重要となる。現在のようなWeb会議が普及する以前は、遠隔地との会議と言えばテレビ会議が主流であった。現在でも、テレビ会議を利用する企業が多い。テレビ会議は、専用のテレビ端末と専用回線を用いた高精細な映像と音声による遠隔会議ツールである。

一方、高画質映像のテレビ会議とは画質が劣るものの、パソコンとインターネット回線があればどこでも利用可能なWeb会議は、当事者同士が素早く共同作業が行えることが大きな特徴である。

現在は個人所有のタブレット（スマートホンを含む）でも簡単に利用できるようになった。しかも、これらのタブレットは数十年前のスーパーコンピューターを上回る性能を備えている。このような高性能なデバイスがネットワークを介してつながることで、社会生活に大きな変化をもたらしている。

（シンガポール　ＴＰ　Ｌ＆Ｅ．Ｍ校舎）

○タブレット端末の導入

近年、社会の情報化の急速な発展に伴い、今までのプロジェクターを利用した一斉学習での活用に加え、「個別学習」・「協働学習」への ICT の活用が求められている。

総務省では、平成 22 年度よりタブレット端末を使った事業を推進するため、ＩＣＴを活用した協働教育に関する調査研究を立ち上げた。文部科学省も平成 23 年「教育の情報化ビジョン」において、21 世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む教育を行うためには、子どもたちの学習や生活の主要な場である学校において、教育の情報化を推進することが必要であると明記されており、その活用例としてタブレット端末をあげている。

タブレット端末の機能性は、これまで比較的持ち運びができたノートパソコンと比較しても、格段に携行しやすく、操作も画面タッチ式のため使用場所も制限されないことが大きな特徴である。また、使用場所だけでなくタイムロスも少ない。一般的なパソコンは、電源を入れてから操作可能になるまでに時間がかかるが、タブレットは電源を入れればすぐに使用可能となる。海外との通信では、突然接続が必要となる場合があり、瞬時に情報発信できるタブレットは利用価値が高い。

接続環境の充実もタブレット端末の普及に関係している。タブレットからインターネット回線

にアクセスするには二通りがあり、一つは無線ＬＡＮでルーター（アクセスポイント）を利用する方法で、もう一つは携帯電話回線を利用する方法である。電話回線を利用すれば、学校においても接続が容易になる。「常に携行でき、いつでもどこでも通信可能」になったタブレットのインパクトは大きい。このような現状から、大学においても新入生全員にタブレット端末を配るといった学科も出始め、教育に活用される機会が増加し利用技術も向上している。

一方で、高校におけるタブレット端末の導入は遅れているのが現状である。
公立高校のため予算的な問題が大きな弊害となるが、便利になった半面、セキュリティにかなり気を配らければならなくなったことも弊害要因の一つである。ノートパソコンより持ち運びが容易になった特徴は、紛失や盗難のリスクを負うことになる。また、インターネットに容易に接続できるが、ウイルス等のネットワーク上のリスクも高い。

しかし、セキュリティ対策を万全にするなど、リスクを回避する管理を徹底したり、センシティブ情報の流出を防ぐための学習や研修を継続したりすることによって、タブレット端末の教育効果を最大限に発揮することができる。生徒の国際交流を促進する一歩となるはずだ。e-mail 等の間接的なコミュニケーションでは現実感に欠け、その部分を Web 会議は補うことができる。相手を感覚的に身近な存在としてとらえ、深く理解することが可能となる。また、個人所有のタブレットも使用可能であり、導入経費を削減することができる。タブレット端末導入のメリットは小さくない。

○iPad を利用した Web 会議

昨年度は、視聴覚室にて有線を利用して中継を行った。使用アプリはグーグルのコミュニケーションツール「HangOuts」。機器はノートパソコン内臓 Web カメラによる撮影で、固定プロジェクターからスクリーンに投影した。

今年度は、今後の個人使用を視野に入れ iPad を使用し、ビデオ電話を可能とするアプリ「FaceTime」による通信を行った。このアプリは iPad や iPhone には購入時より使用可能となっていることも利点である。また、通信回線はセルラーモデルでは、携帯電話と同じように電波が届くところならどこでも通信が可能であるが、通信料金のことを考慮し Wi-Fi 回線を利用した。

シンガポールでの通信環境は、生徒同士の通信を体感してもらうため本校職員持参の iPhone アプリ「FaceTime」を利用し、Wi-Fi 回線によって行った。
通信環境が不十分で、会話途中に回線が切断されることや、音声が途切れることも少なくはなかった。しかし、どのような状況であっても、通信を行っている相手校生徒と直接顔を合わすことは交流を促す上で必須のものと考えられる。グローバル社会で活躍できる人材育成が求められる現代社会では、国際交流を実践するための意識改革を支援するために一度は体験するべきであると痛感した。

今後、生徒同士の通信は「FaceTime」のみならず「ＬＩＮＥ」「Ｓｋｙｐｅ」等が利用されるであろう。これらのアプリケーションは生徒各自が所有するスマートホンで利用することが可能で、常時利用できる。導入コストの問題で導入が遅れる場合にも、個人所有端末で実施できることは大きな利点である。

○授業におけるWeb会議体験実施調査
調査対象事例　シンガポール・テマセクポリテクニック校とのWeb会議
内　　容　「本校開発商品における海外評価」
　　本校生徒が商品開発の授業で取り組んだ、開発商品「金箔入り油取り紙」・「金

箔入り飴」の海外での評価をリサーチし、今後の商品開発に活かす。

日　　時　平成27年11月2日（月）6限　14:25～15:15（日本時間）
　　13:25～14:15（シンガポール時間）

参 加 者　石川県立金沢商業高等学校
　　第3学年「商品開発」　選択者（男子9名　女子35名）
　　テマセクポリテクニック校
　　観光科「L＆E・M（ﾚｼﾞｬｰ･ｲﾍﾞﾝﾄ･ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ）」（教師2名　男子2名　女子7名）

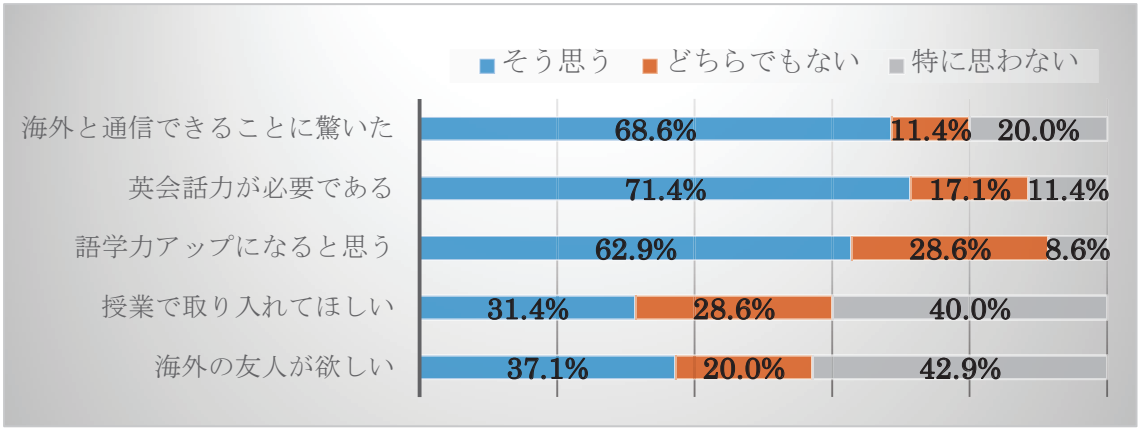
調査対象者　石川県立金沢商業高等学校
　　第3学年「商品開発」　選択者（男子9名　女子35名）

調 査 方 法　アンケート用紙配布

調 査 結 果

図１　国内外におけるWebビデオ通信体験

図２　体験の感想



考　　察

１．本校生徒のタブレットによるWebビデオ会議

国内外におけるWebビデオ通信体験（図１）から、国内での利用経験はあるものの、海外との通信は少なかった。経験者でも通信相手は、海外旅行中の日本人であり、外国人との通信は皆無であった。外国との通信経験数は想定範囲内であった。これは外国語に抵抗を感じる生徒が多いと考えられる。

また、体験の感想（図２）より、「必要性」を感じながらも「積極的に取り組む意欲」に欠如していることが読み取れる。個人の気持ち次第で、手軽に海外との会話が可能で、効果的に外国語を習得できることを周知していきたい。今後の意欲を高めるためにも、学習意欲を喚起する指導が必要であろう。

２．今後、生徒同士の自主的交流が活発になった場合を想定した利点と欠点。

調査結果から、海外との生徒同士の Web会議に必要性を感じる生徒が多く、積極的に利用したい生徒もいる。これらから生徒同士の個人的・自主的交流が活発になると推測したい。

まず、生徒同士のタブレット端末による交流を想定した利点について考察する。生徒は生徒同

士のアドレス交換を終えると常時接続可能になり、授業での交流が必要なくなる。授業として設定した場合は別として、インターネットにつなげる通信環境さえあれば、時間と場所を選ばない交流は、時間的制約がなく積極的に利用したい生徒にとっては大きな利点である。また、グローバル・コミュニケーションが容易で、その内容をもとに最適な学習方法を選択することも可能である。交流自体が語学力向上に反映されやすく、外国語における会話力習得の手段として、専門的機関での受講よりコストダウンも考えられる。

これまで、海外の学校とWeb会議で通信を実施する場合の弊害は時差であり、相互の授業スケジュールが異なることであった。そのため、日程調整が困難であり、相手との交渉、事前準備や授業内容の決定などを含めて担当教諭に大きな負担がかることが考えられる。また技術面では、通信環境が一定せず、トラブルが生じるたびに技術面で詳しい職員や外部支援が必要となっていた。生徒同士の自主交流は、指導側にとっても、生徒と同時期、同一場所にいる必要がなく、効率的に業務が遂行でき、同じ授業を繰り返しおこなう必要もない。なによりも、すべての生徒の「自ら学ぶ」姿勢に大きな教育効果が得られるだろう。

一方で、個人的な生徒同士の交流は、従来型の教師と生徒の関係に大きな変化をもたらすため、欠点を併せ持つことになる。生徒は、自由な時間に取り組むことができる反面、学習意欲の持続が難しいと考えられるため、「自ら学ぶ」といった強い意志が必要であり、意欲が欠如する生徒は機会を持つこともない。指導者不在での通信のため、交流の過程で発生する疑問点等の問題解決ができないことも大きな課題である。特に語学力に自信がない生徒にとっては、十分な対話をできないことが大きな弊害となり、学習意欲を削ぐ要因になるであろう。

以上、利点と欠点を併せ持っているが、機能の充実度や今後の発展性を鑑みると、長期的に生徒同士の交流は不可欠な教育機会であり、積極的な取り組みが必要である。学習意欲を喚起するためにも、効果的な通信教育機会として推進し、積極的な利用を期待したい。

○まとめ

生徒によるタブレット端末を利用した国際交流における教育効果は大きく、その可能性は単なる英会話力向上だけではなく、他者と積極的に関わりを持つコミュニケーション能力の向上や異文化理解など、多面性を持つ。確かに不安材料は少なくはないが、タブレットによるWeb会議全般を支持する生徒の声は多く、アンケート調査では、テレビ会議は「楽しかった」として挙げられた。また、実際にテレビ会議を終えた生徒から「今後、個人的にやってみたい」と、今後の国際交流へ前向きな意見もあった。このように生徒へ及ぼした結果を見ると、Web 会議は文章での間接的な交流を、現実・直接的なものとすることによって、交流を促進する前向きなものであったといえる。

今後さらに通信技術の向上が予想され、安定したWeb会議の機会が増加するであろう。
ますますグローバル社会へと邁進する社会生活を考えると、ＩＣＴ機器を活用した直接的な交流と間接的な交流を組み合わせることで、より活発な交流が望め大きな教育効果を期待できる。
なによりも、生徒が自ら所有するタブレットで、身近に国際交流を実践することができる。これにより現在求められている力を身につけることができるのではないだろうか。

これらを推進し教育効果を得るためにも、指導助言していく必要性がある。